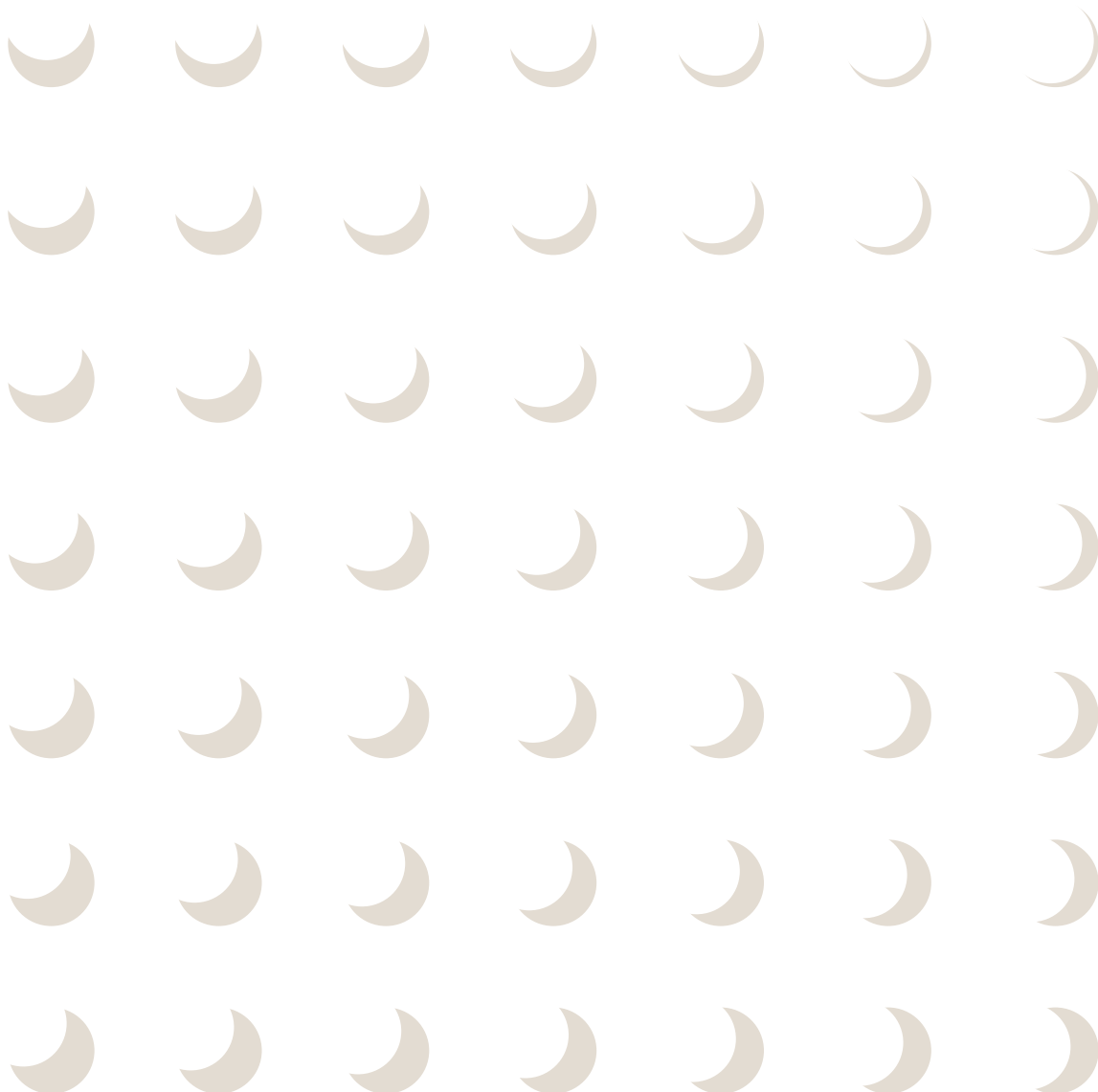


商工会議所キャリア教育活動白書

「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果



日本商工会議所

The Japan Chamber of Commerce and Industry

商工会議所キャリア教育活動白書

～「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果～

目次

はじめに	1
1. 商工会議所とキャリア教育活動 ～現状と課題～	2
2. キャリア教育活動推進のための15のポイント	7
3. 商工会議所におけるキャリア教育活動の先進事例	12
4. キャリア教育活動推進のための参考資料	27
5. 「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」集計結果	29

はじめに

経済のグローバル化や産業構造の変化、少子高齢化の急速な進展など、わが国の経済・社会構造が大きく変化している中、若年者を取り巻く雇用環境も大変厳しいものとなっております。

一方、若年者の失業率の高さ、早期離職率の高さの要因として、社会人としての基礎力の低下や職業意識・職業観の未熟さなど、「学校から社会・職業への移行」が円滑に行われていないことも指摘されており、若者の社会的・職業的自立のために必要な能力や態度を育てるキャリア教育の充実が求められております。

このようなことを背景に、日本商工会議所では教育問題小委員会（現教育専門委員会）が中心となり、平成19年4月に、商工会議所が社会総がかりでの教育再生の中心的な役割を担うことなどを内容とする「教育再生に関する意見」をとりまとめ、全国の商工会議所にキャリア教育活動の具体的な取り組みを呼びかけて参りました。

また、平成20年度からは、毎年、「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」を実施し、各地商工会議所の教育支援活動への取り組みについて実態を把握するとともに、情報提供を通じて活動内容の改善と取り組みの拡大を図っております。

そこで本委員会では、さらなるキャリア教育活動の普及啓発を図るため、これまでの活動に分析を加え、本書を取りまとめました。作成にあたっては、全国514の商工会議所を対象に、「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」を実施し、過去5年間の経年変化に加え、キャリア教育協力活動を実施する267商工会議所の中から先進事例として15の商工会議所を取り上げ、キャリア教育活動に取り組む上で重要となるポイントを15カ条としてまとめております。

過去5年間のアンケート調査結果を比較すると、教育支援・協力活動を行う商工会議所の数は着実に増えており、経済産業省・文部科学省が共催する「キャリア教育アワード」等において、商工会議所のキャリア教育活動が数多く表彰されるなど、産業界を中心とするキャリア教育活動は着実に進展してきております。

各地商工会議所におかれましては、ぜひ本書をご活用いただき、キャリア教育活動の具体的な取り組みを進めていただく一助としていただきますと幸いです。末筆ながら、本書の作成にあたり、アンケート調査及び事例の掲載にご協力をいただきました各地商工会議所の皆様に心より感謝申し上げます。

平成25年3月

日本商工会議所
教育専門委員会 委員長 桑原 亮一

商工会議所とキャリア教育活動——現状と課題

（1）商工会議所におけるキャリア教育活動推進の背景・経緯

第1次安倍内閣は、わが国の最重要課題として「教育再生」を掲げ、平成18年12月、60年ぶりに教育基本法の抜本改正を行った。「人格の完成」や「個人の尊厳」など、それまでの教育基本法に掲げられてきた普遍的な理念は守りつつ、道徳心や自主・自立の精神、公共の精神など新しい時代の教育の基本理念を明示した。

こうした政府の動きに合わせ、日本商工会議所では、平成18年4月に、「教育基本法の早期改正を望む」とする意見を表明した。また、将来の日本を担う人材育成の観点から「教育のあり方」について、教育問題小委員会（現教育専門委員会）などを中心に検討を重ね、平成19年4月に「教育再生に関する意見～商工会議所は社会総がかりでの教育の中心的な役割を担う～」を取りまとめた。その中で、人材こそわが国唯一最大の資源であり、人材育成は最重要課題であることから、国民一人ひとりの意欲、能力の向上を図るためには、学校のみならず家庭や地域による社会総がかりでの教育再生に取り組む必要があることを指摘した。そして、各地商工会議所においては、これまでも様々なキャリア教育活動を実施してきていたが、市民、企業、NPO、各種団体による社会総がかりでの教育再生の取り組みの中心的な役割を、より一層積極的に担っていくことを呼びかけた。

こうした働きかけにより、教育基本法改正を受けた教育改革関連3法案（学校教育法、教員免許法、地方教育行政法）が、平成19年6月に可決・成立。また、政府の教育再生会議において、平成20年1月に、教育のあり方を根本から見直すとともに、教育再生の実効性を確保するため、社会総がかりで教育再生に取り組む必要性を訴える報告書「社会総がかりで教育再生を」が取りまとめられた。

日本商工会議所では、平成19年に「教育再生に関する意見」を発表して以来、商工会議所が社会総がかりでの教育再生の中心的な役割を自ら果たすため、教育支援・協力活動の具体的な取り組みを推進している。その一環として、平成20年度から毎年、各地商工会議所における取り組みについてアンケート調査を実施し、その結果を活動内容の改善と新たに取り組む商工会議所の参考資料として提供している。

（2）商工会議所におけるキャリア教育活動の現状

平成24年度の「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」では、回答があった371商工会議所のうち267商工会議所がキャリア教育活動を実施しているとし、実施率は7割（72.0%）を超えた。調査を開始した平成20年度と比較すると、190ヶ所から267ヶ所に77ヶ所（増加率約40%）増加した（図1）。内容別では、「インターンシップ・職場体験」が225ヶ所と最も多く、「教育機関への社会人講師の派遣」（36ヶ所）、「地元大学との連携（人材育成等）」（31ヶ所）、「商い体験」（24ヶ所）、などが続いている（図2）。

商工会議所は、こうした活動におけるコーディネーター役として、企業と学校の間に入って各種調整を行い、スムーズな運営や双方の事務負担の軽減などに貢献している。また、商工会議所がリーダーシップを発揮して、地元企業や学校、教育委員会、自治体等と連携して協議会を組織するなど、社会総がかりでの教育再生の中心的な役割を果たしている。

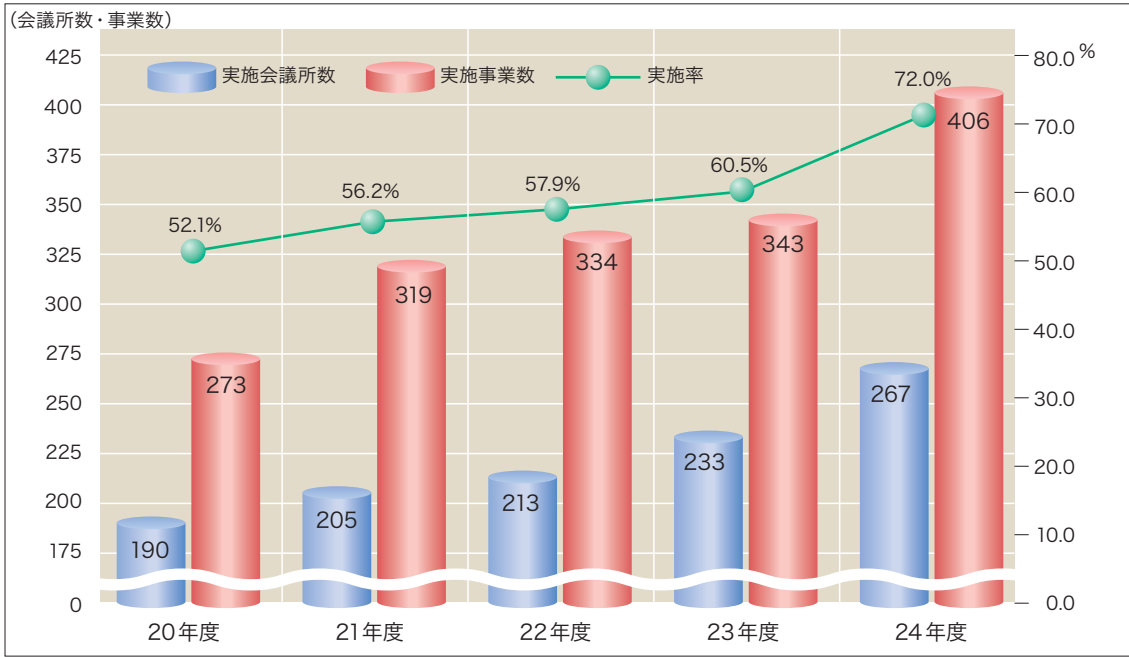
商工会議所が先頭に立ち、学校と企業にとどまらず、行政等も巻き込み地域ぐるみでキャリア教

育活動を実践することにより、将来の地域経済社会の発展を担う人材を自らの地域で育て、地域で活躍できる土壌を築くことができる。

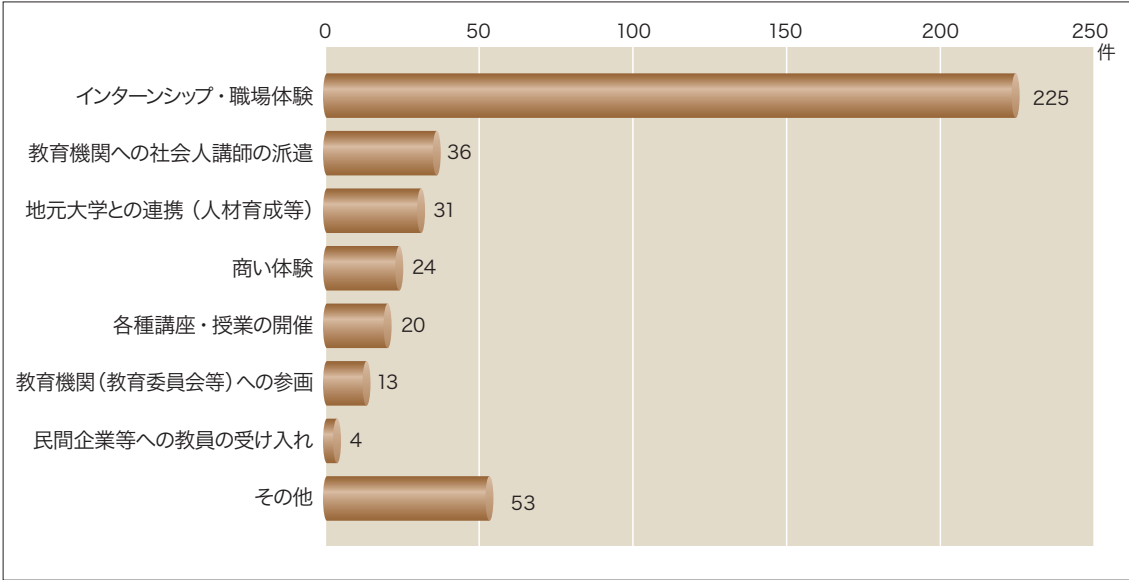
また、こうした活動は、失われつつある地域コミュニティを再生することにもつながり、地域の大人たちが自然と教育に関わる意識を持ち、形骸化している学校評議会や学校運営協議会等に地域住民が積極的に参加し、地域での教育の質を向上させることができる。

こうした活動が高く評価され、経済産業省が実施する「キャリア教育アワード」では、横須賀商工

【図1】教育支援・協力活動を実施している商工会議所数等の推移



【図2】実施内容別活動数

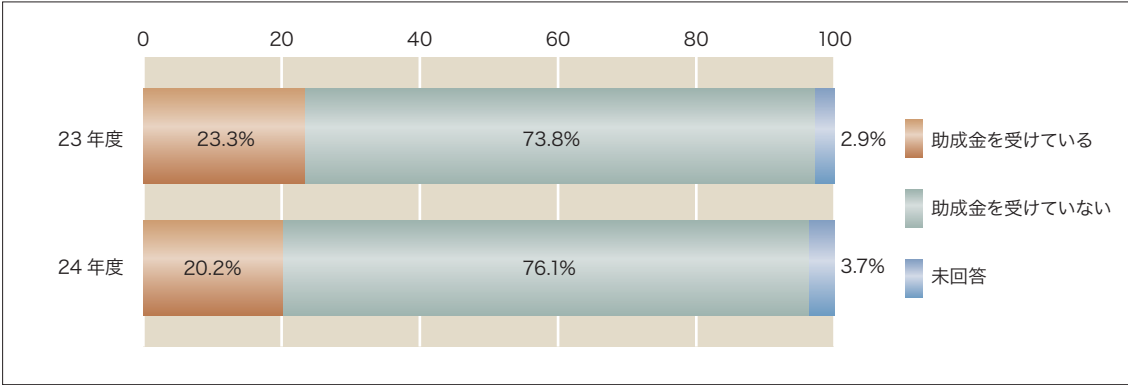


※その他には、「学校現場・保護者・行政等との懇談会の開催」、「教員採用面接における民間人面接委員の推薦」、「採用面接対策のための模擬面接会の開催」等が含まれる。

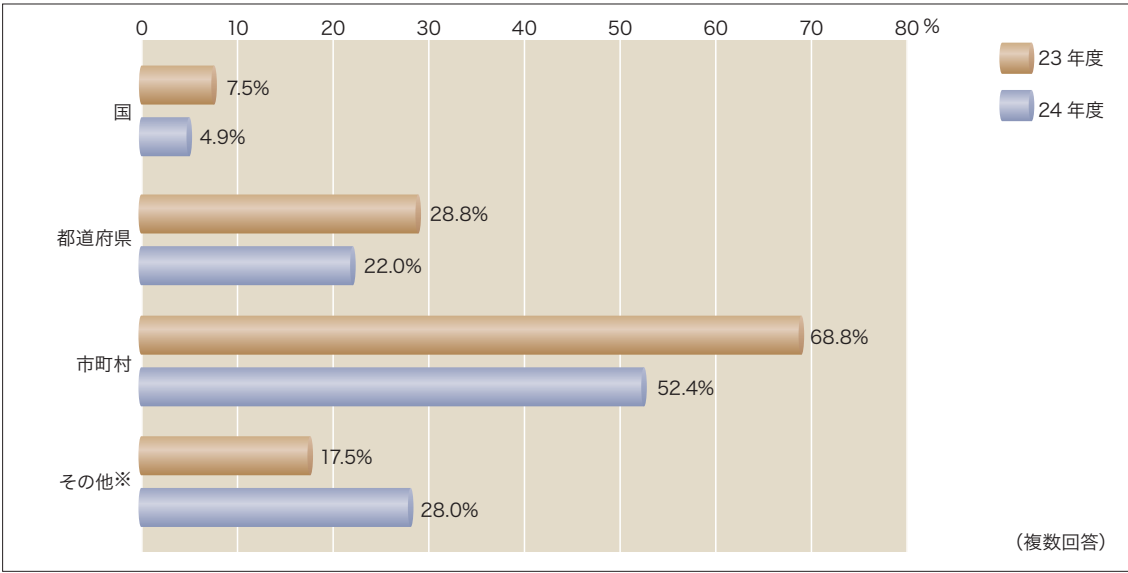
会議所（中学生「自分再発見」プロジェクト）、東京商工会議所（総がかりでのキャリア教育支援活動の実践）、会津若松商工会議所青年部（ジュニアエコノミカレッジ）、福井商工会議所青年部（おしごと探検隊“アントレ・キッズ”）が、また、経済産業省と文部科学省が共催する「キャリア教育推進連携表彰」では、横須賀商工会議所（よこすかキャリア教育推進事務局）、瀬戸商工会議所（瀬戸キャリア教育推進協議会）が表彰された。

他方で、商工会議所が実施する406件のキャリア教育活動のうち、7割以上は行政等からの助成金を受けていない（図3）。助成元をみると、教育に一番身近な市町村が半数以上を占めている（図4）。また、昨年度と比較して、行政からの助成が減少する一方、「その他」の割合が増えていることから、行政に頼らず企業や団体が自主的に教育活動に関わり、地域の子ども達を地域で育てようという意識が浸透してきていることがうかがえる。中には、地域住民や地元企業から広く寄付を受け付ける「基金」を創設して運営している商工会議所もある。一方で、今後も活動を継続していくに当たり、活動資金の調達に不安を抱えているという声も多く、政策的な支援が望まれる。

【図3】教育支援・協力活動に対する助成金の有無



【図4】教育支援・協力活動に対する助成金の助成元



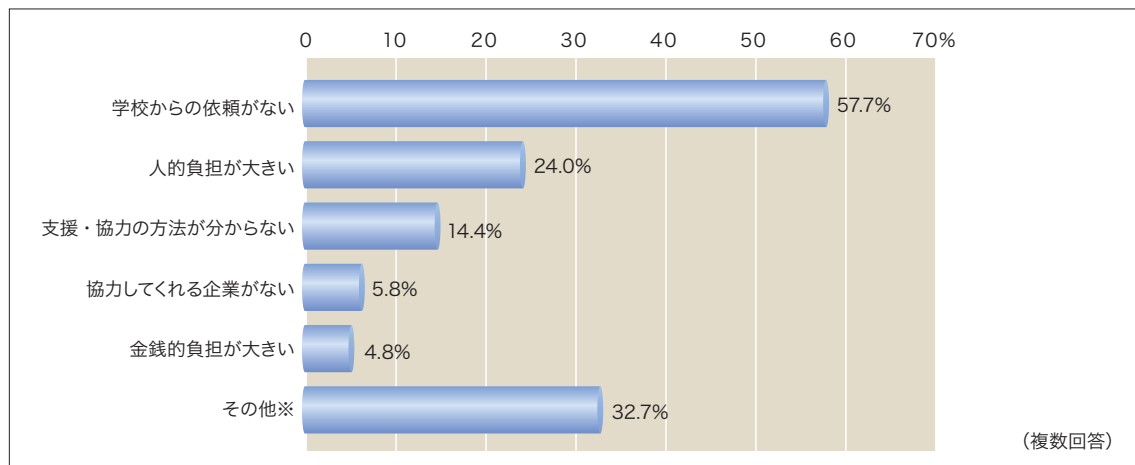
※その他には、「民間企業」、「団体」、「学校」等が含まれる。

（複数回答）

（3）商工会議所におけるキャリア教育活動の今後の課題、展望

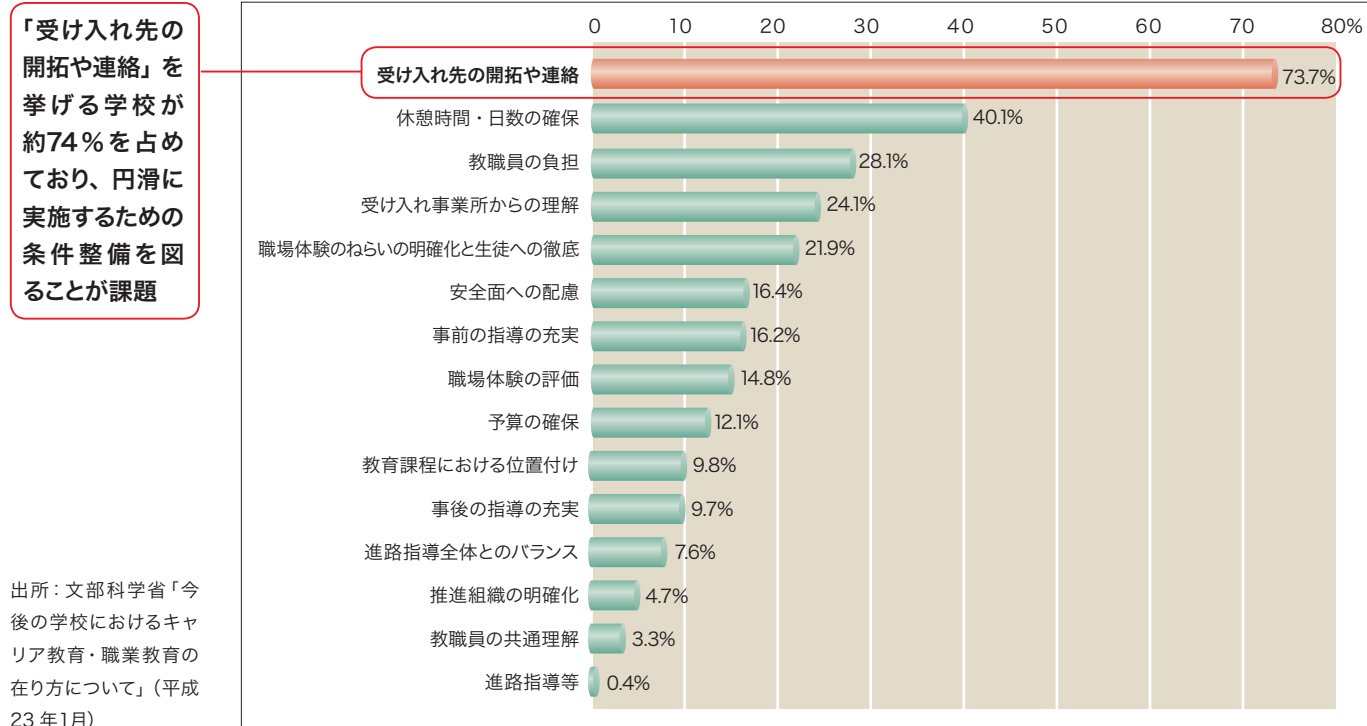
商工会議所がキャリア教育活動を実施していない理由として、最も多く挙げられたのが「学校からの依頼がない」であった（図5）。一方、学校側は、職場体験等における受け入れ企業の確保が困難であることを問題点に挙げており（図6、図7）、キャリア教育活動に協力してもよいと考える商工会議所とインターンシップ等をお願いしたいと考える学校側との間にミスマッチが存在する。これを解消するため、商工会議所が個別の学校と調整するのは、時間も手間もかかることから、推進のための協議会を組織するなど、PTA や校長会、教育委員会、行政などが一体となって活動を推進する体制の構築が望まれる。

【図5】教育支援・協力活動を実施していない理由



※その他には、「行政や他団体が実施しているため」、「事業所に迷惑をかけることがあったため事業を中止した」等が含まれる。

【図6】中学校における職場体験活動の課題



出所：文部科学省「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月）

（注）学生用ジョブカードとは、「履歴シート」、「学校活動履歴シート」、「パーソナリティ／キャリアシート」の3種類のシートからなるファイルのこと。これを作成し、さらにキャリア・コンサルティングや面談を受けることで、自分の強みやキャリア・ビジョン（仕事・職業を通じた自分のなりたい将来の姿・理想像）などが明確となり、目的意識がはっきりとした就職活動が可能となる。

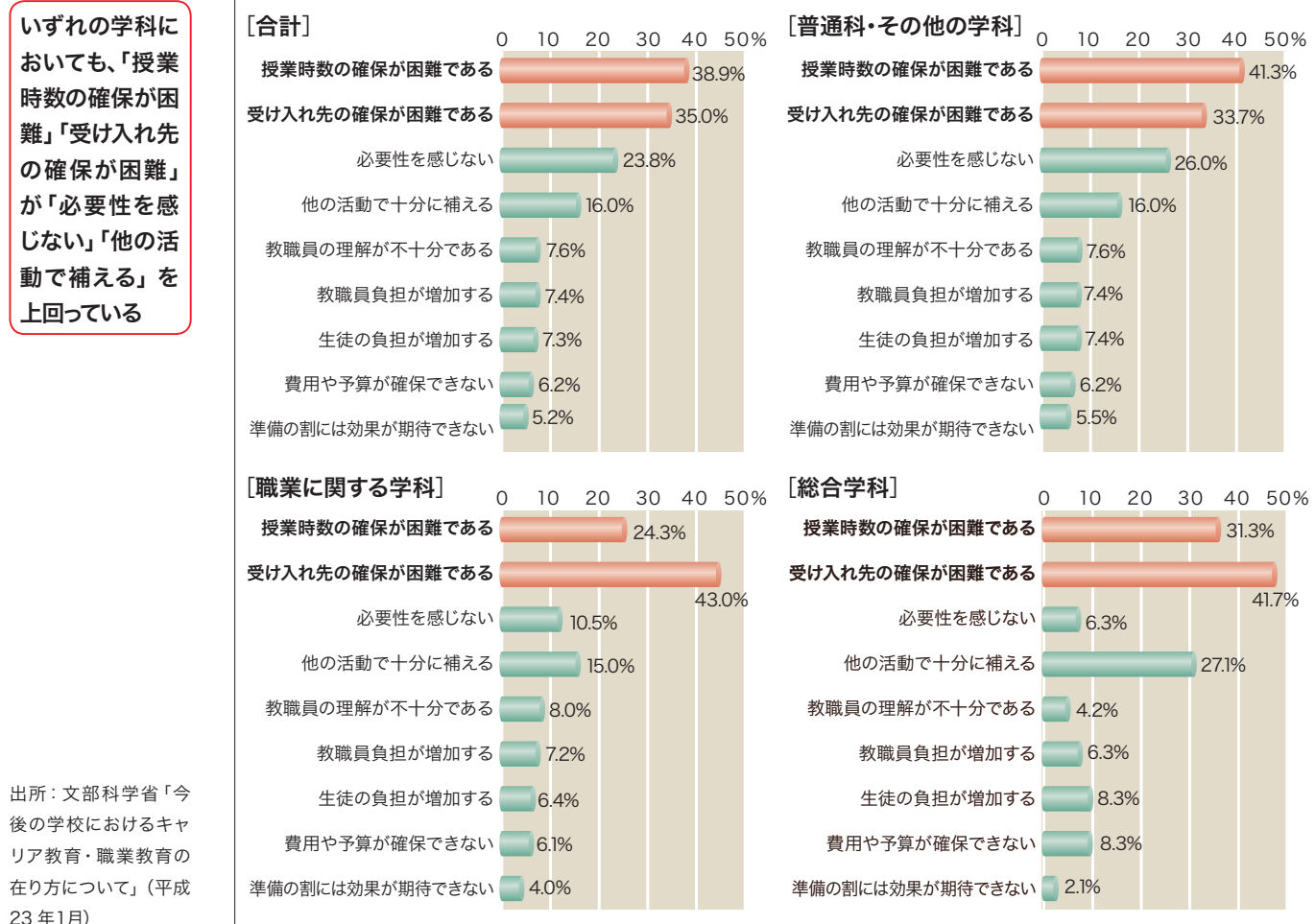
現在、キャリア教育活動を実施している商工会議所においては、「参加した学生が必ずしも地元での就職を望んでいない傾向がある」、「インターンシップ・職場体験で学生を受け入れても直接の就職に繋がらないため、企業の負担感が大きい」等の課題を抱えており、教育機関と企業を円滑に接続する仕組みの構築が必要となっている。その際、平成24年4月から運用が開始された学生用ジョブ・カード（注）をキャリア教育活動の履歴書として普及させ、就職活動に活かすことも有効と思われる。

わが国においては、人材こそが成長の要である。地域の若者が自ら地域を発展させようという意欲や夢を喚起するような教育の在り方を具体的に検討し、教育を通じた地域経済の発展を目指すべきである。

また、日本の持続的な成長のためには、絶え間ない「イノベーション」が必要不可欠である。そのような「イノベーション」をなし得る資質や能力を持つ人材を育成するためには、高等教育のみならず、初等中等教育段階でのものづくり教育の拡充など、裾野の拡大が必要である。商工会議所が実施する活動の中にも、ものづくりに関する活動が多数存在するが、こうした取り組みの重要性を再認識し、予算の拡充等についても改めて検討していくべきと思われる。

商工会議所は、今後も社会総がかりでの教育再生の中心的な役割を果たすため、教育支援・協力活動への取り組みを推進していく所存である。

【図7】高等学校において職場体験活動を実施しない理由



全国514の商工会議所を対象に実施した「教育支援・協力活動に関するアンケート調査」で、キャリア教育活動を実施していると回答した267商工会議所の中から、特に先進的に取り組んでいる15事例を取り上げ、その活動のポイントを紹介する。

経済産業省や文部科学省が実施する表彰制度等において、高い評価を得る商工会議所もある。各地商工会議所においても、以下のポイントを参考に、キャリア教育活動の具体的な取り組みを、より一層推進していただきたい。

- point 1 地域産業を有効活用
- point 2 足利流5S活動の実践
- point 3 地域住民の専門性を有効活用
- point 4 小学生から社会人までを網羅
- point 5 大人の世界を追体験
- point 6 産業観光の一端として地域活性化
- point 7 会議所ネットワークの活用
- point 8 総合的な学習の時間を体系化
- point 9 企業OBの活用
- point 10 幅広い関係者を巻き込んだ組織を構築
- point 11 コーディネーターを有効活用
- point 12 インターンシップ事業を先進的に導入
- point 13 最先端ロボットに触れる機会を提供
- point 14 教えないプログラムで自分力発揮
- point 15 ノウハウをマニュアル化

point 1 100年を超えるものづくりの歴史を持つ地域と企業の関わりを学び、地域産業を身近に感じてもらうことにより、子どもたちの職業観の育成につなげる。

ひたちものづくり探検少年団（日立商工会議所）

▶地域の豊富な知識や経験を持つ専門家の方々の指導のもと、まちを支えてきた優れた技術や製品の歴史を「学ぶ活動」、ものづくりの現場を「見る活動」、道具を使ってものづくりをする「体験活動」を通して、地域のものづくり人材の育成を図っている。

point 2 足利流5S活動（整理・清掃・整頓・清潔・躰）の実践により生徒の能力向上や意識改革を図ることで、人間性豊かな産業人材を育成し、企業の生産性の向上にもつなげる。

足利5S学校（足利商工会議所）

▶自主性を尊重したボトムアップ方式で取り組む「足利流5S」（整理・清掃・整頓・清潔・躰）活動を学校現場に導入し、人間性豊かな産業人材を育成することにより、企業の生産性向上や地域の活性化につなげている。

point 3 中心市街地の商店街の方々を講師として、その専門性を活かした講座を実施することにより、「学び」をキーワードとして中心市街地活性化につなげる。

まちなかキャンパス（前橋商工会議所）

▶子どもから学生、お年寄りまで幅広い世代を対象に、中心市街地全体を大学のキャンパスのように活用して、大学の公開講座や健康づくり等、年間50コマの講座を実施。学び、語らい、楽しめる場を提供することで、中心市街地のにぎわいを創出している。

point 4 高校生を対象とするインターンシップや小中学生とその保護者を対象とした体験ツアー、教職員向けのプログラムにより、キャリア教育にとどまらず、産業人材育成につなげる。

川口若手ものづくり人材育成プロジェクト（川口商工会議所）

▶地元の小中学生とその保護者を対象とした「親子でものづくり体験ツアー」や高校生を対象としたインターンシップ、また、教員を対象としたインターンシップを実施するなど、各段階に応じたプログラムを実施し、地域産業活性化に貢献している。

point 5

事業の立ち上げ、商品の仕入れから販売までの準備、出店、販売活動の一連の経済活動を実体験することにより、指示待ちではない能動的な人材を育成する。

狭山ビズ・キッズ（狭山商工会議所）

▶小中学生を対象に、事業の立ち上げ（企業）、商品の仕入れから販売に至るまでの準備、校外での実際の出店・販売活動を実施。経済活動を実体験させることで、様々な問題解決能力を培い、自ら考え自ら行動することができる能動的な人材を育成している。

point 6

小学生とその保護者を対象に体験活動を実施するとともに、受け入れ事業所を広く外部に紹介して産業観光の一端とすることで、地域内の活性化につなげる。

草加ものづくり探検隊（草加商工会議所）

▶小学3年生以上の児童とその保護者を対象として製造体験等を実施。児童のみならずその保護者も含め、広く地域住民に地元製造業への理解を深めてもらうとともに、将来の草加のものづくりに関わる人材育成を行っている。

point 7

会議所ネットワークを活用し、教育現場の要請に応じた講師派遣や、スケジュール確保の困難な「プロの職業人」派遣などの実施で、子どもたちの職業観醸成につなげる。

総がかりでのキャリア教育支援活動の実践（東京商工会議所）

▶会員企業をネットワーク化し、教育現場の要請に応じて講師を派遣するプログラムや、プロの職業人と直接交流する活動、先端科学の第一人者による講義などを実施。職業観の醸成や社会人に必要なマナーの習得、ものづくりの大切さの意識醸成に貢献している。

point 8

中学校の総合的な学習の時間を体系化して1年を通したプログラムを実施することにより、子ども達の学びをより深める。

よこすかキャリア教育推進事業（横須賀商工会議所）

▶中学校の総合的な学習の時間を体系化し、働くことをテーマにしたグループディスカッションや仕事の仕組みを学ぶポスターセッション、職場体験に向けたビジネスマナー研修等を実施し、将来の横須賀を担う人材を地域で育て、地域で活躍できる土壌を築いている。

point 9

企業OBが指導員となって、児童に発明の工夫の楽しさや創作する喜びを伝えることを通して、創造性豊かな人間形成を図る。

三島市少年少女発明クラブ（三島商工会議所）

▶「自由な発想やアイデアを生かした作品の制作」、「発想法や物の見方、考え方、感じ方の学習」、「野外学習、工場見学などの行事」を通して、科学技術に触れてもらい、ものづくりの面白さと醍醐味を伝え、地元ものづくり系企業技術者の人材発掘に寄与している。

point 10

教育界、行政、議会、経済界、有識者、若い世代を代表する委員で構成する組織の活動により、市民総出で地元の子ども達を育てる。

半田教育改革協議会（半田商工会議所）

▶教育界、行政、議会、経済界、有識者、若い世代を代表する委員で構成された「半田教育改革協議会」と「半田教育専門委員会」において、現代社会の現状と教育の関連について議論を重ね、「教育改革の方向性と具体的提言」を取りまとめのうえ、市長と教育委員長に提出した。

point 11

職場体験等の活動を実施する際の学校と企業間の連絡調整について、コーディネーターを活用することで双方の負担を軽減する。

瀬戸キャリア教育推進事業（瀬戸商工会議所）

▶職場体験や市民講師による授業、体験型ワークショップ等を通して、地域の子ども達に産業を知ってもらい、仕事の大切さを学んでもらう。瀬戸市、教育界、地元企業・商店街等の産業界など、全市をあげた取り組みにより、学校と地域社会を結びつける教育を推進している。

point 12

他の地域に先駆けたインターンシップ事業を平成8年度から実施し、地域企業の重要性や職業の持つ社会的意義・役割への生徒の理解を深める。

桑名方式インターンシップ（桑名商工会議所）

▶全国でもいち早く会議所が企業と学校の仲介役を担い、地元工業高校生徒によるインターンシップ事業を実施した。生徒が地域企業に出向いて専門家の指導を仰ぎながら実習を行い、日頃の校内実習で得た技術をより高め、ものづくりに対する興味を深めている。

point 13

国内外における研究機関や大学、企業等の最先端ロボットを招聘し、デモンストレーションを実施することにより、子どもたちのものづくりへの理解を深める。

きのくにロボットフェスティバル（御坊商工会議所）

▶小・中・高校生対象のロボットコンテストと「全国高専ロボコン」で優秀な成績を取めた招待チームのロボットや企業等の最先端ロボットのデモンストレーションを総合的に実施することにより、青少年のものづくりに対する理解を深めている。

point 14

大人たちは、教えるのではなく環境整備に徹し、子ども達がすでに持っている知識や経験を活用して「自分で決めて行動する」習慣を身につけさせる。

ジュニアエコノミーカレッジ（会津若松商工会議所青年部）

▶模擬株式会社を設立し、計画、仕入れ、製造、販売、決算、納税までの一連のサイクルを体験させることにより、自分たちで課題を発見し、その解決策を自ら考え、決めて、行動することができる人材を育成している。

point 15

蓄積したノウハウをマニュアル化することで、地域の大人が誰でも講師になることができ、子ども達により多くの地域産業の魅力を伝える。

おしごと探検隊“アントレ・キッズ”（福井商工会議所青年部）

▶小学4年生から中学1年生とその父兄を対象とした親子参加型体験教室と子ども中心型の体験教室を実施。地元中小零細企業の魅力を伝えるとともに、親子間で仕事・職業についてコミュニケーションをとるきっかけを作り、地元での職業選択の幅を広げている。

商工会議所における キャリア教育活動の先進事例

point 1

ひたちものづくり探検少年団——日立商工会議所

活動の理念・方針

- 社会人・職業人として自立していくことができるよう、職業を探検させる
- 好奇心や関心の芽を大きく育てる
- 職業観や勤労観を育む
- 地域のものづくり人材の育成を図る

◆背景・経緯：100年を超えるものづくりの歴史

若年者の就労や社会参加に対する意識が大きく変わりつつある中で、子ども達の早い段階での勤労意識の醸成が社会的要請となっている。100年を超えるものづくりの歴史を持つ当地域と企業とのかかわりの中から、子ども達が働くことの楽しさや、自ら考える事の大切さを実感できるよう、当所をはじめ日立市教育委員会や地域産業界が一体となり、平成18年度から当少年団を組織して活動している。

◆内容：学ぶ・見る・体験する

当少年団活動は、子ども達（主に小学5年生から中学生まで）の職業観、勤労観を育むキャリア教育の一環として、地域の豊富な知識や経験を持つ専門家、産業界の方々の指導のもと、以下のような活動を実施している。

- ・学ぶ活動……日立市の工業の歴史、ものづくり文化など、まちを支えてきたすぐれた技術や製品の歴史を学ぶ。
- ・見る活動……地元の企業や最先端の工場、ものづくりの現場を見学する。
- ・体験（ものをつくる）活動……事業主や技能者の方々の指導で、銅、木、陶器、スタンドグラスなどの工芸品を、道具を用いて製作する。

◆効果・成果：地域企業の存在認識が向上

- ・地域企業の存在認識が高められ、自分の家族が勤める会社の様子などをイメージでき、仕事や職業に対する積極的な意識を醸成できる。
- ・指導者は、永年その業界に従事している方や秀でた方に依頼しており、保護者の興味も高めている。
- ・道具を使ってもものづくりをする活動では、その危険性を知ることができる反面、楽しさや興味が増すことを体験の

中で理解できる。

- ・団体活動のルールを学ぶ経験ができる。

◆課題・展望：地域に残るものづくり人材（財）の育成を

従来の活動を踏襲しながらも、工業製品や各種部品など、日立市本来の「ものづくり」産業の現場見学、簡易な機械加工から最先端の加工技術などにも触れられるような活動実施について検討し、地域製造業者の協力を仰ぎたい。（現在は、安全性の確保が確立できていないため実施は見送られている。）

また、小・中学校での職業探検少年団活動、高校生のインターンシップとデュアルシステム活動、大学生の職場体験など、一連の職業体験活動の実施により、地域において地域に残るものづくり人材（財）の育成と確保を目指す日立市ぐるみの一貫した活動として、今後も進めていきたい。



ものづくり探検少年団 入団式

point 2 足利5S学校——足利商工会議所

活動の理念・方針

- 企業の成長と地域の活性化はこれを担う人づくりから
- 5S（整理・清掃・整頓・清潔・躰）の精神を人材育成の基本に
- 足利流5Sを通して美しく安全で安心して住める街づくりを目指す



「足利流5S活動」を実践する生徒たち

◆背景・経緯：足利5S学校

足利市では、製造業を中心とする中小企業が5S活動とその指導者づくりに取り組んでいる。5Sは「整理・清掃・整頓・清潔・躰」を日々実行することを手段とし、社員の能力向上や意識改革などを通して、人材育成や生産性の向上を図っていくマネジメント手法の一つである。この取り組みの一環として、足利商工会議所が中心となり地域全体で5Sを推進するための協議会である「足利5S学校」を組織。個々の企業が5Sに取り組むことで生産性を向上させるとともに、これを地域全体に広げることで生産性向上や地域振興、人材育成等につなげている。

平成24年11月には、経済産業省らの後援で「第1回世界5Sサミット2012足利」を開催し、世界12ヶ国から約300名が参加した。自主性を尊重した足利流5S活動の神髄を披露する一方、大会のまとめに「足利流5Sで日本と世界を元気にしよう!」とサミット足利宣言を採択し、全世界に向けて足利流5Sを発信した。

◆内容：自主性を尊重した足利流5S

足利流5S活動は、「指摘をせずヒントを出して気づきを促し、自ら考えて実践した成果を褒めて伸ばす」究極のコーチング手法が実践支援の鍵である。自主性を尊重したボトムアップ方式で取り組む5S活動は、やらされ感が無く楽しみながら取り組めるスタイルが好評で、5S導入の定着化と継続性を力強く支えている。

日本最古の総合大学として全国に知られる史跡足利学校では、昔、多くの学徒が「自学自習の精神」で学問を習得し、日本の歴史を築いてきたと言われている。一方、「足利流5S活動」においては、実践する個々人が自ら考え、また楽しく自主的に改善を進めるその姿が、正に足利学校の自学自

習の精神に相通じている。

足利5S学校で進める5Sインストラクター養成研修には、市内県立高校の先生も参加し、教育現場での5S普及を通じた教育支援活動に繋げている。

◆効果・成果：高校で実践・産業人育成

市内の栃木県立高校2校（足利工業高校、足利清風高校）では、「整理・清掃・整頓…」を学校生活で習慣づける「5S運動」に先生や生徒たちが一丸となり取り組んでいる。県内では珍しい試みで、経費節減や企業が求める人材育成につながり高い効果が出ている。学校教育における5S導入の狙いは、「社会に出て通用する人づくりの基本を学び、人間性豊かな産業人を育成すること」としており、足利5S学校第3期インストラクター養成研修では両校から担当教諭が参加し、指導者としての技能を習得した。世界5Sサミットでは、高校での導入事例の発表を行うとともに学校での視察受け入れの成果報告を行った。

◆課題・展望：市内の小中学校に展開

足利商工会議所では、足利市役所と教育委員会に行政サービスや教育現場での足利流5S活動の導入を推奨している。市役所も意欲的な実践活動を進める一方、教育委員会においては、平成24年度に小中学校各1校をモデル校として「5S運動実践校」に指定した。日頃の教育活動を5S運動から見直すことにより、よりよい環境づくりに努め、豊かな心を持ち、たくましく学ぶ児童や生徒の育成に繋げようとしている。

足利5S学校では、先生方に5S活動への理解を深めてもらうとともに、積極的な教育現場での導入支援により、足利市の全ての小中学校へ展開して行くことに大きな期待を寄せている。

point 3 まちなかキャンパス——前橋商工会議所

活動の理念・方針

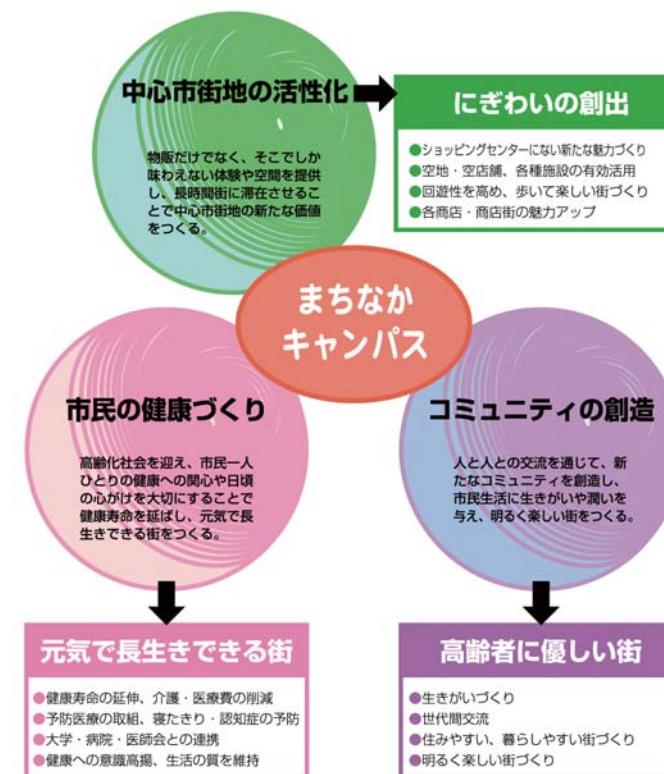
- 中心市街地の活性化 …………… “にぎわいの創出”
- 市民の健康づくり …………… “元気で長生きできる街”
- 新たなコミュニティの創造 …………… “高齢者に優しい街”



◆背景・経緯：「学び」をキーワードに中心市街地活性化

前橋市では、大型ショッピングセンターの郊外進出や自動車社会の進展、さらに人口減少・高齢化の波に飲まれ中心市街地の空洞化が進んでいる。そうした中、前橋商工会議所では、平成18年2月に群馬大学と前橋工科大学と3者協定を締結し、「学び」をキーワードに中心市街地全体を大学のキャンパスのように活用し、人々の交流と賑いを創出してきた。スタート時は、年間50コマの講座を実施することに戸惑いながらも、大学の協力を頼りにカリキュラムの作成に取り組んだ。

しかし、現在では商店街の方々が自ら講師に手を挙げ、



専門店の知識を生かした講座を実施するようになり、お客様とのつながりも生まれ、店主のモチベーションも向上してきている。事業開始から7年が経過し、通算回数は1,474回、参加延べ人数は47,278名。携わった講師は300名以上になる。講師の方には、謝礼は一切払わず、手弁当でご協力をいただいている。

また、今年度より前橋市が共催となり、市有施設の会場費が減免となり、経費は宣伝費程度になった。また、参加者には、商店街のポイントカードのポイントを付与し、商店街での購入機会が増えるようにしている。

◆効果・成果：なんと年間328回、10,011名参加【講座ジャンル】幅広い年齢層の方々が各種講座を体験

◆内容：産学官民がつながる取り組み

◆課題・展望：住んでよし、訪れてよしの“前橋”

今後の課題としては、いかに全市民へPRしていくか、運営体制や運営費をどうするのか、講座内容をどう充実していくかなどがある。まちづくり会社設立の動きがあるので、運営体制をそこへ移行させることも考えられる。また、他団体等が実施しているまちなかでのイベントや講座を1つに集約できるよう、現在行政等と連携し「前橋大学（仮）」として検討している。

子どもから高齢者までが学び、語らい、楽しめる環境整備を進め、生涯学習の場として日常的に中心市街地に多くの人が集まり、回遊する仕組みをつくることで、安心・安全・快適なまちづくりを推進し、「住んでよし、訪れてよしの“前橋”」を目指す。

point 4 川口若手ものづくり人材育成プロジェクト——川口商工会議所

活動の理念・方針

- 地学地就 ～地域で学び 地域に貢献～
 - ・「地学」：地域資源を教育に生かし、地域全体を学びの場とする
 - ・「地就」：地元企業への就職を促進し、地域産業活性化に貢献する
- 若手ものづくり人材の育成、地元就職の促進、地域産業の振興を図る



熟練の技術に見入る学生たち

◆背景・経緯：4者協定で恒久的なプログラムを確立

【平成19年度】 経済産業省（工業高校実践教育導入事業）と文部科学省（ものづくり～21年度人材育成のための専門高校・地域産業連携事業）の共同事業に参画。さいたま地域、熊谷地域、狭山地域、川口地域の4拠点で事業を実施。

【平成22年度】 全国中小企業団体中央会「ものづくり分野の人材育成・確保事業」補助金に採択され、川口地域単独で事業を実施。

【平成23年度～】 川口商工会議所、埼玉県立川口工業高等学校、川口鋳物工業協同組合、川口機械工業協同組合4者で協定を締結し、相互に費用負担をしながら恒久的な教育プログラムを確立することとした。

◆内容：発達段階に応じた多様なプログラム

足利流5S活動は、「指摘をせずヒントを出して気づきを促し、自ら考えて実践した成果を褒めて伸ばす」究極のコーチング手法が実践支援の鍵である。

【1.インターンシップ】 生徒の職業観や勤労観を育成するため、2年生を対象に受け入れ企業において、3日間程度のインターンシップ（企業での就労体験）を実施。年々参加者と受け入れ企業は増加。（平成24年度実績75社183名受け入れ）

【2.高度技術者による特別授業】 高度熟練技能者の持つ高い技術・技能を生徒に伝承するとともに、生徒の技能修得意欲を増進。授業では、「旋盤」・「溶接」・「板金」・「塗装」等、高い技術を持った企業が実践的な授業を担当。（平成24年度実績：述べ17回実施）

【3.ものづくりのたまご事業】 地元の小中学生とその保護者を対象に、鋳物製表札やゲルマニウムラジオ作成等のものづくり体験と工場見学を行う「親子でものづくり体験ツアー」を実施。

【4.教員の研修】 授業のレベルアップを図

ため、川口工業高等学校教員を対象にしたインターンシップや企業見学等を実施。

【5.中学校の技術家庭教員と連携】 ものづくり人材育成の重要性を理解してもらうため、地元中学校の教員に対し、川口工業高等学校教員が専門的な技術（エネルギー変換に関する技術の教材開発等）を指導。

【6.企業と学校との連携】 異業種連携グループ「川口リンク」が製作し、川口工業高等学校生がデザイン協力したキャタピラ式車いすを展示会に出展し、来場者の高い関心を得ている。

◆効果・成果：実践的教育プログラムが充実

若者のものづくり離れが深刻化している現代において、技術の承継や若手ものづくり人材の育成は本地域産業界においても喫緊の課題である。しかしながら、学校教育現場においては、多様化する生徒の学習意欲への対応方法に苦慮する面もあり、学校教育だけでは、産業人材育成が完結できない状況も見受けられるなか、若手ものづくり人材の育成、地元就職の促進、地域産業の振興を図るため、産業界と行政、教育機関等が連携した本プロジェクトにより、工業高校生を対象にした実践的な教育プログラムの充実を図ることが出来た。

◆課題・展望：小学生から社会人まで網羅したシステムを

今後は、工業高校生のプログラムに加え、社会人（一般事業者の技術者等）を対象としたカリキュラム作成、人材登録制度等「(仮称)ものづくり人材育成センター」の概念を検討し、小学生から社会人までの全階層を網羅した若手ものづくり人材の教育システム構築を目指す。

point 5 狭山ビズ・キッズ——狭山商工会議所

活動の理念・方針

- 次世代を担う子どもたちを対象に、職業観と経済能力を養うプログラム
- 3現主義（現金・現物・現場）で実体験！
- 自ら考え、自ら行動する能動的な人材を育成する

◆背景・経緯：英国の体験型企業家教育プログラムを参考に

英国の体験型起業家教育プログラムの使用权を持つ事業者から話を聞き、子どもたちのキャリア教育としての有効性を認識したことがきっかけとなり、幼少期から経済システム等を体験して理解するとともに、経済に興味を持つことの出来る人材を地域で育成することを目的に、平成15年度に「ビズ・キッズ」を開始した。

当初、小学生を対象としていた本事業を、中高生向けに理論・実学の要素を多く取り入れ、よりロジカルに実戦に近い形に進化させた「ビズ・キッズユース」にも取り組んでいる。

◆内容：能動的な人材を育成

小学生や中学生を対象に、事業の立ち上げ（起業）、商品の仕入れから販売に至るまでの準備、校外での実際の出店、販売活動を体験する。3現主義（現金・現物・現場）の考え方にに基づき、経済活動を実体験してもらうことで自ら考え自ら行動する、指示待ちではない能動的な人材の育成



地域住民に自分たちの商品を販売



販売体験を終え、達成感に満ちた子ども達

につながる内容となっており、経済の芽、起業家の芽を育てることを狙いとしている。

◆効果・成果：問題解決能力が培われる

本プログラムを通して、生徒たちは流通や経済の仕組みを学ぶとともに、チームワークやコミュニケーション、自ら考え行動し、やり抜くことの大切さ、実践の面白さを体験する。また、顧客への対応、販売手法等を通じて、（教科書にはない）正答のない問題への取り組みを体験し、様々な問題解決能力が培われていく。

◆課題・展望：マンパワーの確保・育成が重要

本事業は小学校とサポーターとしての大学生、地域の商店街等の連携が重要で、それだけに評価も高いが、大変手数のかかるものであり、横展開を考えると事業実施のためのマンパワーの確保・育成が重要である。また、一部では理解され始めてきたが、キャリア教育・経済教育とした場合、その主体がいずれにあるのかという、事業を実施する側の意識改革も必要と考える。

point 6 草加ものづくり探検隊——草加商工会議所

活動の理念・方針

- 地域住民が製造業事業所を訪問し、地域製造業への理解を深めてもらう
- 将来、草加のものづくりに関わる人材育成の一端となる
- 製造業事業所を外部に紹介することで、将来の『産業観光』へ向けた取り組みの一端とする

◆背景・経緯：地域住民に工場の立場を理解していただく

草加は、埼玉県内有数の工業地域であるが、準工業地域等で住宅と工場が混在している場所が多く、会議所として、地域住民に対し、工場側の立場を理解していただくための取り組みを行う必要性を感じていた。

同時に、当時の経済状況から、市内製造業への就業人口も年々減少している状況にあり、将来の市内製造業の展望を考えた時に不安を感じていた。

そうした中、会議所として「地域住民が製造業事業所へ訪問し、地域製造業への理解を深めてもらう」、「将来、草加のものづくりに関わる人材育成の一端となる」、「見学受け入れ可能な製造業事業所を外部に紹介することで、将来の『産業観光』へ向けた取り組みの一端とする」という3つの目的から「草加ものづくり探検隊」事業は始まった。

◆内容：製造体験、農作物収穫体験

事業は平成18年度にスタート。内容は、草加市内のものづくり企業（平成22年度からは農家も対象）を小学3年生以上の児童とその保護者が訪れ、製造体験や農作物収穫体験を行っている。

平成18年度は、小学3年生以上の児童とその保護者について新聞広告、チラシでの募集を行ない、参加者97名で9事業所を訪問。19年度からは、参加者募集について、市教育委員会の後援も得て、市内全小学校に依頼し、担任教諭から対象児童に応募チラシを配布してもらっている。平成24度は、計4日間（8コース）の開催で13事業所と1団体を参加者320名で訪問した。

※平成24年度参加者負担金は、児童、父兄同額の1,000円～1,500円（コースによる）。

◆効果・成果：地元事業所への関心高まる

24年度の事業アンケート（児童へは聞き取り、父兄へは書面対応）では、参加児童141名中、136名から「また参加したい」との回答があり、続く「製造・農産物収穫体験に興味を持てたか」の問いには、133名が「興味を持てた」との回答、「将来、製品製造や農業を自分でやってみたいか」の問いには、121名から「やってみたい」との回答があった。一方、父兄からは、回答者175名中157名から地元の活動について「とても参考になった」、「参考になった」との回答が寄せられ、57名の方からは「もっと多くの地元事業所を知りたい」との回答が寄せられた。

◆課題・展望：事業所の売上げアップにつなげる仕組みを

今後の展開として、25年度は、見学先事業所を増やし、実施日も増やすことを検討中。



地元企業を訪れ、製造体験する子ども達

point 7 総がかりでのキャリア教育支援活動の実践——東京商工会議所

第3回キャリア教育アワード優秀賞受賞

活動の理念・方針

- 地職業観の醸成、社会人に必要なマナーの習得や、ものづくりの大切さの意識醸成
- 子どもたちの職業意識を高める
- 将来の技術職を目指す若者の育成や区内産業の継承



プロのサッカーコーチから直接指導を受ける

◆背景・経緯：ネットワークの活用

1. 教育支援プログラム推進事業（墨田支部）

墨田区が抱える様々な教育課題の解決に向け、墨田区教育委員会の実施する「墨田区学校支援ネットワーク事業」との連携を図り、中学校の授業に会員企業経営者を講師として派遣したことをきっかけに平成22年4月から各種取り組みを拡大した。

2. 夢サポート事業（豊島支部）

豊島区の記念事業として、区立小学校全生徒を対象に実施した絵画展で、子どもたちが夢の職業を描いたことを契機に、夢の職業の専門家を派遣する取り組みを平成24年12月にスタートした。

3. 自然科学フォーラム事業（荒川支部）

次代を担う子どもたちが、地域社会での様々な経験を通して、自然科学や技術に対する好奇心を呼び起こし、区内産業に目を向けることを目的とした事業の一環として、近隣の大学を見学する企画を平成19年7月に開始した。

◆内容：「プロ」との交流

1. 教育支援プログラム推進事業（墨田支部）

会員企業から教育支援協力企業をネットワーク化し、教育現場の要請に応じて講師を派遣。「職場体験事前学習（マナー講習）」「中学生のハローワーク」「ようこそ！地域の先輩」など様々なプログラムを展開している。

2. 夢サポート事業（豊島支部）

小学生が憧れの職業につけるよう、豊島支部青年部の「若手経営者」が中心となり、プロサッカー選手など、スケジュール確保の極めて難しい「プロの職業人」を確保し、直接交流する活動を展開している。

3. 自然科学フォーラム事業（荒川支部）

東京大学キャンパスにて、海外でも活躍し先端科学の第一人者である早野龍五教授から、ヒッグス粒子、放射線など最近話題となった最先端の科学を学ぶ。

4. 教育・人材育成委員会活動（本部）

キャリア教育の推進策等について調査研究活動や意見・要望活動、また、企業が行うインターンシップなど、教育支援活動の実態や課題等を、隔年での調査を実施する。

◆効果・成果：企業の裾野拡大

教育支援プログラム推進事業では、経営者、従業員として第一線にいる登録講師から話を聞け、実社会の生の声を実感してもらえる。また、夢サポート事業では、チーム間での競争心を生み出すことで、自ら行動できる自立心が芽生えるよう仕向けている。自然科学フォーラム事業においては、授業を大学で行い、将来の進路選択の参考となるようにするなど工夫している。他方、教育・人材育成委員会活動では、キャリア教育支援活動に関心を持つ企業の裾野拡大の効果が期待できる。

◆課題・展望：職業観の醸成

教育支援プログラム推進事業では、生徒たちにもものづくりの現場を見てもらったり、社会人講師から話を聞いてもらい、職業観の醸成につながる活動を今後も展開していく。夢サポート事業では、一人でも多くの小学生が夢の職業に近付ける手伝いを行っていくものであり、自然科学フォーラム事業では、将来の技術者を目指す若者の育成につながる事業展開に取り組んでいく。

point 8 よこすかキャリア教育推進事業——横須賀商工会議所

第1回キャリア教育アワード小宮山審査委員長賞受賞 第1回キャリア教育推進連携表彰最優秀賞受賞

活動の理念・方針

- 将来の横須賀を担う人材を、地域で育て、地域で活躍できる土壌を築く
- 地域産業界が積極的に子ども達の教育に関わり、夢を与え地域への愛着心を醸成する

◆背景・経緯：よこすかで働く大人は、みんな子ども達の先生

フリーターやニートなどの若年者の無就業問題、さらに市内に目を向けると、少子化や人口減少による労働生産力の低下が危惧される中で、若年労働者の他地域への流出は、地域エネルギーの減退につながる。

そこで、「よこすかで働く大人は、みんな子ども達の先生」のスローガンの下、地域で働く大人が子ども達の教育に関わることにより、「職業に対する興味」や「働くことの意味」を考えさせるとともに、横須賀の未来を担う産業人を育成し、将来の横須賀を活性化させることを目的に、横須賀市・市教育委員会・当所が連携し、平成20年度から、「中学生“自分再発見”プロジェクト」をスタートさせた。

◆内容：総合的な学習の時間を体系化

横須賀市・市教育委員会・当所が連携し、当所内に“横須賀キャリア教育推進事務局”を設置、キャリア教育コーディネーター（元市立高校副校長）を配置し、推進中学校（平成20年2校→平成22年20校）の総合的な学習の時間を体系化、1年を通して子ども達の職業観・勤労観の醸成を目的とした教育プログラムを実施する。

事務局の役割は、子ども達の学びをより深めるためのカリキュラム作成



花屋の仕事を紹介するポスターセッション

支援および、教育現場と産業界の橋渡し役としての機能と、本事業を全面的に支援いただい

る地元の企業集団（キャリア教育応援団：現在約400社が登録）からの職業人講師（MTT＝マイ・タウン・ティーチャー）の派遣依頼などを行う。

主なプログラムは、MTTと生徒たちによる“働くこと”をテーマにしたグループディスカッションや地域で営まれている仕事の仕組みを学ぶポスターセッション、職場体験に向けたビジネスマナー研修等を用意している。

また、教職員とMTTが一堂に会する交流会を年に1度実施（平成24年度：129人の参加）し、横須賀で働く者同士の産学連携も深めている。

◆効果・成果：教職員の社会性向上にも貢献

【学校側】

地域企業に関わることにより、地域で働く人への親近感の向上や地域で働く意義を実感するなどの効果。また、社会経験の浅い教職員の社会性の向上や地域産業への理解度の向上も。

【企業側】

講師を派遣するという意識ではなく「実践型社員研修」という位置付けで参加いただいている。

子ども達を前にして、自身の職業観・勤労観を話すことは、改めて自身の仕事の意義を考えたり、仕事に向かう姿勢を見直す機会と捉えていただいている。

◆課題・展望：地域の大人が連携して人材育成を

横須賀市の基本計画に重点政策として「キャリア教育の推進」が明記され、全校（23校）実施の礎が確立された。2校からスタートした推進校を、全校で実施していくためには、キャリア教育応援団を増やし、多くのMTTや事業所に関わっていただき、子ども達に、“気づき”を感じてもらうことが必要。

point 9 三島市少年少女発明クラブ——三島商工会議所

活動の理念・方針

- 未来を担う創造性豊かな人となる
- 科学的に探求する能力と態度を育てる
- 粘り強く物を作りあげたりすることの大切さや完成したときの喜びを味わう
- 創作活動を通して発想力や物の見方、考え方、感じ方を養う

◆背景・経緯：創造性豊かな人材を育てる

三島市少年少女発明クラブ（会長：堀之内勝之）は、子ども達が創作する喜びと発明の工夫の楽しさを通して、創造性豊かな人間に育つことを願うとともに、学校週5日制による余暇を充実して過ごせるよう支援するため、行政と民間の協同により平成17年6月に設立された。

少年少女発明クラブへの参加を通して子供たちに科学と技術に触れてもらい、ものづくりの面白さと醍醐味を伝えるとともに、工業系高校、大学への進学を促し、地元ものづくり系企業技術者の人材発掘にも寄与するもの。

実行委員会に当所工業部会長が委員として参加し、事業運営等に関わっている。

平成18年4月7日には、社団法人発明協会から全国で195番目（静岡県内で4番目）の少年少女発明クラブとして認可を受けた。

◆内容：科学技術に関する興味・関心を追求

児童に科学技術に関する興味、関心を追求できる場を提供し、科学的で独創的な発想に基づく創作活動を通して、発明の工夫の楽しさと創作する喜びを体得させることにより、



独創的な発想で創作活動

創造性豊かな人間形成を図ることを目的とする。企業OB7名を指導員として、全20回の講座を開催している。

【活動期間】※24年度

平成24年5月から平成25年3月末（全20回）
第1・3土曜日の9：00～12：00

【会 場】 三島市生涯学習センター

【対 象】 市内在住の小学校4～6年生

【内 容】 （1）自由な発想やアイデアを生かした作品の製作
（2）自分が作った作品を使って、発想法や物の見方、考え方、感じ方の学習
（3）野外学習、工場見学などの行事

【参加費】 6,000円

◆効果・成果：ものづくりに対する姿勢を醸成

教室では、挨拶や道具の扱い方、清掃等について「約束」として徹底され、グループ作業によるリーダーシップの育成も図られ、卒業する頃にはものづくりに対する姿勢が醸成される。

講座には「全国少年少女チャレンジ創造コンテスト」への参加も取り入れられ、モーターとゴムで動く「ハイブリッドカー」を作り、全国大会に進出するなど受講生のレベルアップも図られている。

◆課題・展望：卒業者の追跡調査が必要に

例年、定員30名に対し60名の応募があり、抽選により選考する。来年度は定員を50名に増員して対応するが、それに伴い経費もかさむため、運営の見直しも検討されている。

平成17年からスタートし、8年目を数える。参加者は延べ250名となり、第1期の受講生は20歳になる。今後は卒業者の進路や就職状況を調査し、当初目的の検証も必要ではないかと思われる。

point 10 半田教育改革協議会——半田商工会議所

活動の理念・方針

- このままではこの国はダメになる。それを防ぐのは人づくりである
- 人づくりに関わる環境が変われば、子どもたちは正しく育てられ、故郷や国は今よりきっと良くなる
- 子どもたちを育てる「親と家庭」「教育界」「行政と地域」が教育の在り方を変える



第1回半田教育改革協議会を開催

◆背景・経緯：半田から教育を変えよう！

半田商工会議所では、今から8年前の平成17年4月に、「半田から教育を変えよう」を合言葉に教育改革運動を開始した。経済人の目から見て、『このままではこの国はダメになる、それを防ぐのは人づくりである』と考えたからである。それからの6年間は、教育界と会議所の教育改革の担当者が交流と学校教育支援活動を重ね、その結果生まれたのが、半田の教育改革の全般的な方向性を協議する教育改革専門委員会と、委員会での内容を最終的に決定する半田教育改革協議会だ。

専門委員会と協議会はどちらも、教育界、行政、議会、経済界、有識者、若い世代を代表する委員で構成された全国でも稀な組織であり、これまでの会議開催回数は、専門委員会では43回、協議会では12回を数える。この中で、専門委員会は、現代社会の現象と教育の関連について議論を重ね、問題解決のためには、子どもたちを育てる「親と家庭」「教育界」「行政と地域」が教育の在り方を変える以外に方法はないとの結論にいたり、「教育改革の方向性と具体的提言」をとりまとめた。

◆内容：教育改革の方向性と具体的提言

「教育改革の方向性と具体的提言」の主な内容

【親・家庭についての具体的提言】

●親を学び、親を楽しむ

- ・親は教育基本法を確認、理解し、子どもの教育に第一義的責任を負う
- ・親が子どもの教育に明確な考え方をもち、子どもと対話する
- ・親は子どもに自らの行動（背中）で正しい生き方を教えるなど

【学校・教師・教育委員会への具体的提言】

●新しい教育で新しい時代を拓く

- ・多面的な評価で、誉める仕組みを強化して、切磋琢磨を促す
- ・補助教材の活用や社会奉仕体験活動などで人間教育の質を上げる
- ・日本の近現代史教育を強化する など

【行政と地域への具体的提言】

●行政と地域の協働で子育てを

- ・地域・行政は子どもの健全育成に寄与する団体等（子ども会等）の活動を後押しする
- ・行政と諸団体は、青少年の国際・国内交流活動を積極的かつ継続的に支援する
- ・行政は防災も含め、親子で参加する行事を増やすなど

◆効果・成果：市長、教育委員長に提出

この提言は、平成25年3月に市長と教育委員長に対して提出されたもの。さらなる現場の英知を加えて、間違いなく実践されるものと信じている。

◆課題・展望：教育改革の炎を全国に

教科書については十分な議論が尽くされておらず、引き続き研究を重ねていく。

今後は教科書議論も含め、半田で始まった教育改革の運動が市民運動にまで広がり、市民総出で半田の子どもたちを育てることができれば、近い将来、半田は他に誇れる素晴らしい街になると考えている。最終的に、この教育改革の炎が全国に広がり、日本が再び夢と活力に溢れた国に変わることを切に願う。

point 11 瀬戸キャリア教育推進事業——瀬戸商工会議所

第1回キャリア教育推進連携表彰優秀賞受賞

活動の理念・方針

- 子ども達一人ひとりが自らの生き方を考え、自ら行動できるように育てて欲しい
- 地域の子子ども達に産業を知ってもらい、仕事の大切さなどの職業観を学んでもらう
- 「瀬戸の子どもは瀬戸で育てる」をテーマに、生まれてきて良かった、生きていることが嬉しい、大人になることが楽しみだと思えるような瀬戸市を目指す

◆背景・経緯：瀬戸市をあげての取り組み

経済産業省が、平成17年度から3年間、子ども達に対して、ものづくり等を通して働くことの面白さの体験・理解を促し、職業観の醸成を図るため、「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」を実施。全国28ヶ所のモデル地域の一つとして瀬戸市が選ばれる。

3年間のプロジェクト終了後も引き続き、瀬戸商工会議所が中心となり、瀬戸市・小中学校等の教育界、地元企業、商店街などの産業界による全市をあげての「瀬戸キャリア教育推進事業」に取り組んでいる。

◆内容：コーディネーターを有効活用

(1) 職場体験

瀬戸市内の中学2年生を対象とした、2～5日間の職場体験学習の実施にあたり、学校と職場体験先の事業所や商店が頻繁に連絡調整を行う必要がある。コーディネーターが事業所との連絡を担当することで、地域の方の教育支援を受けられやすくと同時に、教員の負担を軽減している。

(2) 中学生を対象にした市民講師による授業

中学1年生から2年生にかけて「生きがい働きがい講座」、



せともの祭で中学生が陶器を販売

「職業講座」、「マナー研修」を経て職場体験にのぞむ。

3年生は、これから社会に出て行くことに鑑み自己PRを学ぶ「コミュニケーション講座」を実施。発達段階にあった体系的なキャリア教育の授業を実施している。

(3) 体験型ワークショップ

主に小学生を対象にした貿易ゲーム・カイゼンセミナー・瀬戸版ドリームマップ・レンガアートを実施している。

◆効果・成果：学校現場との信頼感を醸成

講師による授業を通して、「なぜ勉強しなくてはいけないのかわかった」、「今の学習が将来どう役立つかがわかった」などの感想があり、将来を見通した学習意欲の拡大につながっていることがうかがえる。

地域の方からは、「子どもに話すことにより地域活動の意義、仕事の意義を再認識する機会につながる」といった意見が、保護者からは、「家庭で仕事について話す機会が増えた、親子で進路や将来を考える機会になった」という感想をいただいた。

いずれの感想からも、児童生徒のみならず、大人世代においても「自分自身の職業観や人生観を見つめ直すきっかけになった」というキャリア観の再認識と学校現場との信頼感の醸成に役立っていることがうかがえる。

◆課題・展望：学校と地域社会を結びつける教育

この授業を受けた子ども達が10年後にどんな大人になり、どんな社会になっているか、そこではじめて成果は分かるということを念頭に、今後も様々な機会を活用して学校と地域社会とを結びつけるキャリア教育を進め、未来を担う子どもたちが夢の実現に向けて努力してくれることを願ってこれからも推進していきたいと考えている。

point 12 桑名方式インターンシップ——桑名商工会議所

活動の理念・方針

- 生徒が企業に出向き、日頃の技術をより高める
- 専門家の指導を仰ぎ、ものづくりに対してより興味を深める
- 職業観・勤労観を育成する
- 地域企業の採用活動や振興に資する

◆背景・経緯：全国でもいち早く会議所が仲介役に

平成8年度から、製造関連部会を中心に桑名工業高校の生徒による産業現場実習（インターンシップ事業）に取り組んでいる。生徒が地域企業に出向き、日頃の校内実習で得た技術をより高め、ものづくりに対してさらに興味を深めるため専門家の指導を仰ぎ、地域企業の重要性を理解するとともに、企業で職場を体験することにより、職業観・勤労観を育成し、自己表現、社会表現など、職業の持つ個人的・社会的意義と役割について理解を深める。また、企業としては、各社業務内容を広く周知、PRする機会や、今後の採用活動の一助として捉え、ひいては、地域産業全体の振興に資することを目的としている。

この事業では、桑名商工会議所が受入事業所の開拓と学校との仲介役を担い、学校、企業、商工会議所が三者一体となって取り組んでいる。全国でもいち早くこうした活動を実施したことから、この手法は桑名方式インターンシップと呼ばれている。

◆内容：成果発表会によるフィードバック

①インターンシップ説明会

学校関係者・受入企業担当者向けに説明会を実施。

②インターンシップ実施

桑名工業高校2年生全員が71企業に出向き実習。

③インターンシップ報告会

学校関係者・受入企業担当者が出席して、体験生徒の発表。その後、受入企業との意見交換を実施。

④インターンシップ・デュアルシステム成果発表会

実際に企業の機械を使って作業を体験。



実際に企業の機械を使って作業を体験

◆教職員の指導力も向上

【生徒の声】 企業担当者の指導が親切であったことから、いかにコミュニケーションが必要であるか、また、会社組織や仕事内容を理解できた。

【教職員の声】 職業の現実や企業が求める資質・人材など多くの知識が得られ、今後の生徒の教育指導や進路指導がより確かなものとなり、教職員の指導力の向上にも繋がった。

【企業の声】 従業員の意識向上や社内の活性化につながった。

◆生徒の就職内定率が100%に

本事業の効果もあり、就職内定率は100%となった。インターンシップを受けたいと入学希望する生徒も多く、求人倍率3.72倍と普通学校にはない高倍率となっている。今後も当所として継続的に支援し、一人でも多く地元企業に就職して頂ける体制づくりのお手伝いをしていく。

point 13 きのくにロボットフェスティバル——御坊商工会議所

活動の理念・方針

- 青少年のものづくりに対する理解を深める
- 日本のものづくりと科学技術の進展に資する

◆背景・経緯：高専ロボコン準優勝をきっかけに

平成18年の「高専ロボコン2006全国大会」において、御坊市の和歌山工業高等専門学校が準優勝したことをきっかけとして、和歌山県・御坊市・和歌山工業高等専門学校・御坊商工会議所が中心となり、「きのくにロボットフェスティバル実行委員会」を立ち上げ、平成19年12月23日に第1回「きのくにロボットフェスティバル2007」を開催した。

開催に際しては、文部科学省・経済産業省・全国高等専門学校連合会・国立高等専門学校機構等のご後援を頂いている。

◆内容：最先端技術に触れる

●小・中・高校生対象のロボットコンテスト

毎年、小学校・中学校・高校の3部門それぞれの競技内容を決めてコンテストを実施している。小中学生については、和歌山県内の工業高校や近畿・東海・北陸地域の高専の協力で、子供たちへのロボット製作の指導を行って頂き、その上で地区予選を実施してもらっている。

また、24年度から小中学生については「全国小中学生ロボット選手権」として、全国規模の大会とした。

高校生については、和歌山県内の工業高校を中心にロボットコンテストを行っている。



きのくにロボットフェスティバル 表彰式

●高専ロボコンパフォーマンス

毎年開催される「高専ロボコン全国大会」の優秀チームを招待して、和歌山高専のチームと共に、その年の高専ロボコンの競技を実演してもらう。また、各高専のブースを設け、子供たちにロボット製作の説明をしたり、実際にロボットにふれる機会を提供している。

●研究機関・大学・企業等の最先端ロボット招聘

毎年、国内外のロボットを招聘しており、本田技研工業の「ASIMO」、産業技術総合研究所の「未夢」、千葉工業大学の「Quince」、トヨタ自動車の「パートナーロボット」等を招聘し、多くの方々に最先端ロボットにふれる機会を提供している。

◆効果・成果：小中学生のものづくりに対する関心が向上

●小中学生のロボット製作講習会・予選会への参加

各地の高専や工業高校で実施しているロボット製作講習会とロボットコンテストの予選会参加者は年々増えてきており、24年度は、製作講習会・予選会とも658名が参加している。

●ロボットフェスティバル入場者数

ロボットフェスティバルの入場者数も増えてきており、24年度は約8,000人の入場者数であった。

◆課題・展望：全国からの参加者増を目指して

小中学生のロボットコンテストについては、参加地域を広げてきており、24年度より、四国地区の予選および大会前日に全国予選を開催して全国規模の大会とし、大会の名称も「全日本小中学生ロボット選手権」とした。

しかしながら、製作講習会を実施している地域以外ではまだまだ大会の知名度が低く、参加者が少ない状況にある。今後、マスコミ等も活用して知名度を上げ、全国からの参加者を増やしていくことが課題と考えている。

point 14 ジュニアエコノミーカレッジ——会津若松商工会議所青年部

第1回キャリア教育アワード優秀賞受賞

活動の理念・方針

- 決めるのは子ども達、そのためにアウトプット、教えないプログラム
- 地元の大人が子どもを育てる。役割は環境整備
- 地域で継続できる持続可能なプログラム

◆背景・経緯：地元企業を継承していくために

平成12年、ジュニアエコノミーカレッジは、会津若松商工会議所青年部の独自事業として始まった。平成23年、第7回日本YEG大賞日商会頭賞、第1回キャリア教育アワード優秀賞を受賞するなど、内外からの高い評価をいただいている。事業を始めたきっかけは、後継者育成を意図したものだった。安定を求める子どもたちの職業観を知り、地元企業を継承していくためには、早い段階での商売体験が有効なのではないかと考えた。その後、プログラムが確立され、開催地域が全国に広がった。平成25年現在、全国17地域で行われ、これまでに約4,000名がジュニエコに参加している。

◆内容：自分で決めて行動するプログラム

ジュニエコは、小学校5、6年生が1チーム5名で模擬株式会社を設立し、計画、仕入れ、製造、販売、決算、納税までの一連のサイクルを体験する「自分力発揮」のプログラム。資本金10,000円、必要であれば10,000円の借入をし、最大20,000円の元手で会社を経営する。「自分力」とは、すでに子どもたちが持っている様々な知識や経験を指す。



緊張の面持ちで、借入のため銀行に事業説明

一般の販売実習や模擬店のように売る・買うといった行為だけでなく、会社内での役職をチームで自由に設定するとともに、商品や販売の計画を自分たちで立て、会社の元手を確保するための企画に対する株主からの出資による資本金集めや、銀行からの借り入れ等も体験するなど、子どもたちが「自分で決めて行動すること」を身につけていけるよう、プログラム設計に工夫がされている。

◆効果・成果：自分で課題を見つけ、解決する

ジュニエコ卒業生への追跡調査でも、8割を超える子ども達が「自分で課題を見つけ解決する楽しさを知った」と回答しており、卒業後でもジュニエコの経験が子ども達に影響していることがうかがえる。

◆課題・展望：日本の未来を地方から作る

平成23年11月、会津若松YEGから独立するかたちで、NPO法人ジュニアエコノミーカレッジが設立された。主に、広報やプログラムの管理などジュニエコを全国に広めるための活動を行っている。今後は、さらに多くの地域でジュニエコが開催され、より多くの子ども達にジュニエコを体験する機会をつくっていきたいと考えている。その町に住む大人たちの思いを伝えられた子ども達が、日本の各地に増えれば、地方は豊かにつながっていくはずである。

日本の未来を地方から作っていく活動として、ジュニエコを全国に伝えていきたいと思っている。

point 15 おしごと探検隊“アントレ・キッズ”——福井商工会議所青年部

第2回キャリア教育アワード優秀賞受賞

活動の理念・方針

- 子ども達の将来の仕事に対する「夢」の幅を広げ、日本（福井）を支える人材育成を図る
- ボランティアだけの社会貢献活動ではなく、企業が信頼、安心という利益を得るための社会投資活動

◆背景・経緯：「夢」の幅を広げる

「おしごと探検隊“アントレ・キッズ”」は、福井商工会議所青年部（福井YEG）の会員自らが、自分の職業・職種を紹介し、体験する機会を提供することで、仕事の厳しさ、働くことの素晴らしさ、ものづくり・サービス業の面白さを伝える魂の授業であり、子ども達に将来の仕事に対する「夢」の幅を広げ、更に、日本（福井）を支える人材育成をはかりたいと平成17年にスタートした。

これまで子ども達に対する教育は教科学習やスポーツが中心であり、体験型教育においても伝統産業や科学実験が大部分を占め、「職＝仕事」に関する教育・体験は非常に少ないのが現状。この事業により、現在問題となっているニート対策の一環としても、小学生のころからのキャリア教育＝仕事に関する教育が重要と考える。「働くことは生きること」、そんな思いを実践している福井YEGの会員企業が、仕事の誇りを紹介・体験できる機会を提供し、仕事に真剣な人間形成を目指す。

また、参加する企業は、子どもたちの先生になることで、自分の仕事と企業に対する自信と誇りが増し、人材育成へとつながる。その結果、地域産業を支える活力のある企業活動へと結び付けることができる。

◆内容：誇り、やりがい、働く意味、実体験

1. 仕事の誇り……………職業の意義、世の中で必要とされている理由を説明。
2. 仕事のやりがい……………職業の大変な面、しかし、やりがいのある面の説明。
3. 働く事の意味を形成……職業（職人、技師等）の紹介・説明。
4. 仕事の体験・経験……小学生がわかる比喻や例えを交えた面白い説明、体験。

5. 対象……………小学生(4年～6年生)～中学生(1年生)とその父兄で行う、親子参加体験型教室または小中学生、PTA、育成会で行う子供中心型の体験型教室。

◆効果・成果：参加企業にも大きなメリット

1. 企画により自社の強みを分析し、見直す機会となる。
2. 自分の商売を通して社会に貢献できる。
3. 自己啓発・社員教育となる。
4. 企業を直接子ども達、父母にアピールできる。
5. 体験により企業を子ども達、父母に知ってもらい、潜在顧客獲得する機会がある。
6. 直接市場ニーズを収集し、企業価値を向上できる。
7. 将来の産業の担い手、自社の社員を獲得する。
8. YEG会員同士の助け合いによる運営ノウハウを相互に共有できる。
9. 子ども達から元気パワーをもらうことができる。

◆課題・展望：進化するアントレ・キッズ ネットワーク

今後は、小さな店主や年配の方でも、誰でも簡単に講師になれる「魔法のマニュアル」等を活用し、福井YEG主催から共催・後援へと次のステップに進む時期に

来ている。これまで培った知識・経験・精神の継承を一層推し進め、行政や地域へ伝授しながらその趣旨を正確に理解して頂けるよう丁寧に説明・サポートする。



様々な職業を体験する子ども達

（1）関連情報

①いま取り組むべき産学協働によるキャリア教育実践事例集

（経済産業省、日本商工会議所、キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会）

平成23年度に日本商工会議所が実施した、学生に中小企業の魅力を伝える「産学協働教育を通じた中小企業の魅力発信事業」の成果を取りまとめたもの。大学における中小企業経営者によるリレー講義や、学生が中小企業経営者を取材した結果をプレゼンする「魅力発信レポート」の作成などを通じたキャリア教育の実践事例などを紹介。

http://www.jcci.or.jp/chusho/09_jzi/14_miryoku/seikajireisyu.pdf

②キャリア教育支援ガイドブック

（経済産業省、キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会）

経済産業省が、企業や地域社会に対してキャリア教育への協力を求めるとともに、社会人講師の派遣や職場体験等の事例を交え、実際の教育支援活動の流れやポイント等を紹介。

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/pdf/guidebook.pdf>

③キャリア教育ガイドブック（経済産業省、NPO法人アスクネット）

経済産業省が、平成17年より実施していた、地域の民間主体を仲介役（コーディネーター）として支援する「地域自律・民間活動型キャリア教育プロジェクト」の集大成として、平成20年に発行。「物語編」では、キャリア教育から生まれた数々のストーリーを取り上げ、「実践編」では、実際にキャリア教育を行うための“いろは”を紹介。

物語編：

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/pdf/guidebook_monogatari.pdf

実践編：

http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/pdf/guidebook_jissen.pdf

④子どもと社会の架け橋となるポータルサイト（文部科学省）

文部科学省が運営する、小・中・高等学校と地域社会や産業界の架け橋となるマッチングサイト。「地域社会や産業界等が提供できる支援」と「学校側が望む支援」をそれぞれ書き込むことができ、相互に閲覧し、連絡を取ることを可能とするポータルサイト。

<http://kakehashi.mext.go.jp/>

⑤+ESDプロジェクト（環境省、国際環境研究会）

ESDとは「持続可能な開発のための教育」（Education for Sustainable Development）の略称。環境、人権、健康福祉、多文化共生、まちづくりなどをテーマとして、NGO/NPO、学校、企業などが行う持続可能な社会づくりに向けた人づくりにつながる全ての活動。

<http://www.p-esd.go.jp/design/esdp/esd.html>

（2）キャリア教育コーディネーター

①キャリア教育コーディネーター育成ガイドライン（経済産業省）

経済産業省の「キャリア教育民間コーディネーター育成・評価システム開発研究会」が、キャリア教育コーディネーターを育成する機関において、地域社会や学校の実態に十分配慮し、研修内容を適切に構成するための具体的な指針を定めたもの。

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/pdf/guideline.pdf>

②キャリア教育コーディネート事例集（経済産業省、スクール・アドバイス・ネットワーク）

経済産業省が、全国で活躍するキャリア教育コーディネーターの理念、基本的な役割、有するべき知識・技能等について、29のコーディネート事例とともに紹介。

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/pdf/jireishu.pdf>

③一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会

今後さらに全国の学校・行政機関・企業・地域社会に「キャリア教育」を浸透させ、より多くの子ども達の参加を得て、実践・推進していくために設立。学校と企業の橋渡しをする「キャリア教育コーディネーター」の育成・認定やキャリア教育に関する優良事例の発掘・普及・広報活動などの活動を実施。

<http://www.human-edu.jp/cccec>

（3）表彰制度

①キャリア教育アワード（経済産業省）

経済産業省が、これからの社会を支える子ども達に対する社会的投資として教育への参画活動を促進し、こうした活動の成果を広く社会で共有することを目的とし、企業等における教育活動の先進的な取り組みを表彰する「キャリア教育アワード」を創設。

第1回：<http://www.meti.go.jp/press/20110309001/20110309001-1.pdf>

※横須賀商工会議所が小宮山審査委員長賞、会津若松商工会議所青年部が優秀賞を受賞。

第2回：<http://www.meti.go.jp/press/2011/01/20120127007/20120127007-1.pdf>

※福井商工会議所青年部が大賞を受賞。

第3回：<http://www.meti.go.jp/press/2012/02/20130220004/20130220004-1.pdf>

※東京商工会議所が優秀賞を受賞。

②キャリア教育推進連携表彰（経済産業省、文部科学省）

経済産業省と文部科学省が、学校を中心としたキャリア教育の推進のため、教育関係者（学校や教育委員会等）と、行政（首長部局等）や地域社会（NPO法人やPTA団体等）、産業界（経済団体や企業等）が連携・協働して行う取り組みを公募し、優秀と認められる事例を表彰する「キャリア教育推進連携表彰」を創設。

第1回：<http://www.meti.go.jp/press/2011/01/20120113001/20120113001-1.pdf>

※横須賀商工会議所（よこすかキャリア教育推進事務局）が最優秀賞、

瀬戸商工会議所（瀬戸キャリア教育推進協議会）が優秀賞を受賞。

第2回：<http://www.meti.go.jp/press/2012/01/20130131001/20130131001-1.pdf>

（1）調査概要

1. 調査目的	地域総合経済団体である商工会議所として「社会総がかりでの教育」の実現に貢献するため、本調査を実施し、その集計結果を、今後より一層教育支援・協力活動の取り組みを拡大し、全国に普及していくための参考資料とする。（平成 20 年度より実施）
2. 調査期間	平成 24 年9月 20 日～ 11 月 19 日
3. 調査対象	全国 514 商工会議所
4. 回答商工会議所数	371 商工会議所（回答率：72.2%）
5. 調査方法	イントラネットによるアンケート調査
6. 調査内容	小学校から大学までを対象に、インターンシップ・職場体験商い体験などのキャリア教育支援・協力活動等の実施状況および活動内容等

●地区内人口別回答状況

	回答会議所数	回答率
全体	371	72.2%
20万人以上	72	75.8%
10万人以上20万人未満	76	73.8%
5万人以上10万人未満	93	69.4%
5万人未満	130	71.4%

●ブロック別回答状況

	回答会議所数	回答率
全体	371	72.2%
北海道	27	64.3%
東北	37	82.2%
北陸信越	37	75.5%
関東	77	75.5%
東海	35	71.4%
近畿	53	74.6%
中国	35	68.6%
四国	18	66.7%
九州	52	66.7%

※ブロック分け：北海道＝北海道
東北＝青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北陸信越＝新潟、富山、石川、長野
関東＝茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、静岡
東海＝岐阜、愛知、三重
近畿＝福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国＝鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国＝徳島、香川、愛媛、高知
九州＝福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

（2）集計結果概要

●7割を超える商工会議所が教育支援・協力活動を実施

回答があった371商工会議所のうち267商工会議所が教育支援・協力活動を実施しているとし、実施率は7割（72.0%）を超えた。調査を開始した平成20年度と比較すると、190 ヶ所から267 ヶ所に77 ヶ所（増加率約40%）増加した。

●産業界と教育現場の課題認識にギャップ

商工会議所が教育支援・協力活動を実施していない理由として、最も多く挙げられたのが「学校からの依頼がない」であった。一方、学校側は、職場体験等における受け入れ企業の確保が困難であることを問題点に挙げており（※）、教育支援活動に協力してもよいと考える商工会議所とインターンシップ等をお願いしたいと考える学校側との間にミスマッチが存在する。

※文部科学省「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月）

●商工会議所による教育支援・協力活動の輪が全国的に拡大

商工会議所所在地を9つのブロックに分けてみると、全地域の実施率が60%を超えた。また、地区内人口が5万人未満の小都市の商工会議所においても実施率が50%を超えるなど、商工会議所による教育支援・協力活動の輪が、地域に根差した活動として全国的な広がりを見せている。

●商工会議所が実施する活動の多くは助成金を受けず実施

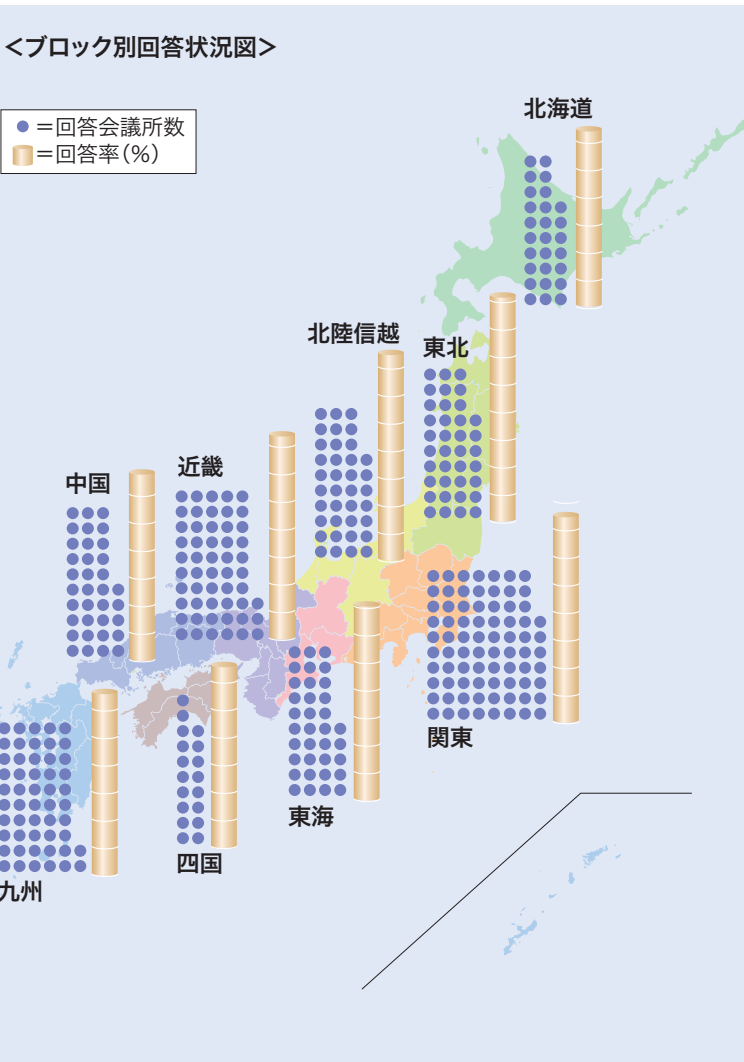
商工会議所が実施する406件の教育支援・協力活動のうち、7割以上は行政等からの助成金を受けていない。助成元をみると、教育に一番身近な市町村が半数以上を占めている。また、昨年度と比較して、行政からの助成が減少する一方、「その他」の割合が増えていることから、行政に頼らず企業や団体が自主的に教育活動に関わり、地域の子ども達を地域で育てようという意識が浸透してきていることがうかがえる。

●多くの商工会議所が学校と中小企業を直接結ぶ取り組みに前向きな姿勢

アンケートに回答した371商工会議所のうち122商工会議所が、中小企業の魅力を学生に伝えることを目的とした情報提供や、大学の就職担当者と中小企業の採用担当者が一堂に会する懇談会の開催など、学校と企業を直接結ぶ取り組みを実施している。「今後実施する予定である」と「学校側からの依頼があれば対応したい」を合わせると、7割以上（282 ヶ所：76%）の商工会議所がこうした取り組みに対して前向きな姿勢を示している。

●大学の秋入学やギャップタームの導入については意見が分かれる

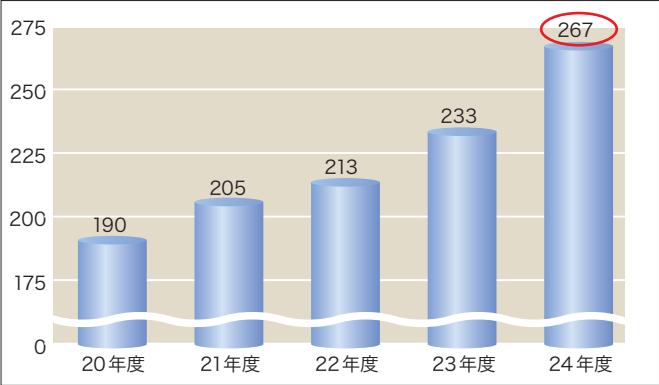
大学の秋入学やギャップタームの導入に関しては、「雇用のミスマッチ解消の一助となり得る」などの賛成意見が多数寄せられる一方、企業における採用活動の負担増を懸念する声などもあり、意見が分かれている。



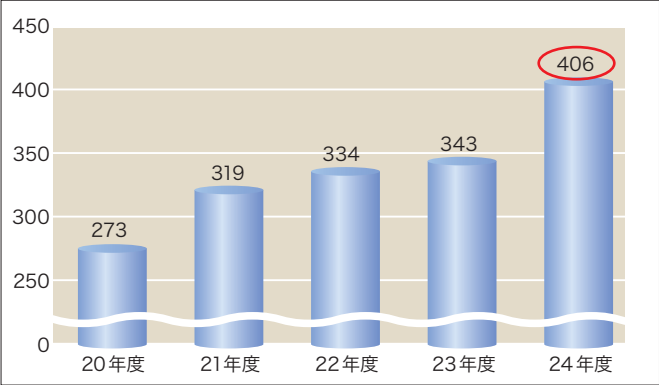
(3) 教育支援・協力活動を実施している商工会議所数等の推移

- 回答があった371商工会議所のうち267商工会議所が教育支援・協力活動を実施しているとしており、実施率は7割（72.0%）を超えた。
- 調査を開始した平成20年度と比較すると、190ヶ所から267ヶ所に77ヶ所（増加率約40%）増加した。
- 活動実施商工会議所数の増加に伴い、その活動数は平成20年の273件から406件に133件（増加率約50%）増加し、商工会議所が中心となった社会総がかりでの教育支援・協力活動が各地に普及していることがうかがえる。

● 教育支援・協力活動を実施している商工会議所数の推移



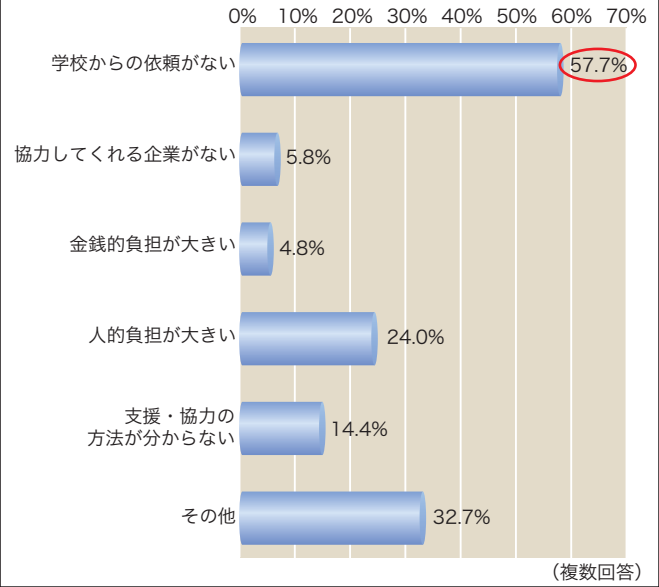
● 実施活動数の推移



(4) 教育支援・協力活動を実施していない理由

- 回答があった371商工会議所のうち、104商工会議所が実施していないと回答。その理由として最も多く挙げられたのが「学校からの依頼がない」（57.7%）であった。
- 「その他」としては、「行政や他団体が実施しているため」、「事業所に迷惑をかけることがあったため事業を中止した」等の回答もあった。

● 教育支援・協力活動を実施していない理由



(5) 地区内人口別教育支援・協力活動の実施率等

- 地区内人口の多い商工会議所ほど活動の実施率が高い傾向は平成20年度から変わらないが、地区内人口5万人未満の小都市の商工会議所においても実施率が50%を超えた（平成20年度は31.6%）。

● 地区内人口別教育支援・協力活動の実施率等

	実施商工会議所数		実施率 (実施商工会議所数/回答数)		1商工会議所あたりの活動数	
	20年度	24年度	20年度	24年度	20年度	24年度
全体	190	267	52.1%	72.0%	1.4	1.5
20万人以上	54	61	74.0%	84.7%	1.6	1.9
10万人以上 20万人未満	49	65	64.5%	85.5%	1.4	1.5
5万人以上 10万人未満	45	69	54.2%	74.2%	1.5	1.4
5万人未満	42	72	31.6%	55.4%	1.1	1.4

(6) ブロック別教育支援・協力活動の実施率等

- 地域ごとにみると、平成20年度に27.8%だった四国は、今年度77.8%と大幅な伸び（50ポイント増）を示した。全ブロックにおける実施率が60%を超え、教育支援・協力活動が地域に根差した活動として広がりを見せている。

● ブロック別教育支援・協力活動の実施率等

	実施商工会議所数		実施率 (実施商工会議所数/回答数)		1商工会議所あたりの活動数	
	20年度	24年度	20年度	24年度	20年度	24年度
全体	190	267	52.1%	72.0%	1.4	1.5
北海道	15	18	50.0%	66.7%	1.2	1.3
東北	16	26	53.3%	70.3%	1.4	1.5
北陸信越	19	28	48.7%	75.7%	1.5	1.5
関東	44	53	60.3%	68.8%	1.5	1.6
東海	24	28	63.2%	80.0%	1.6	1.5
近畿	27	42	57.4%	79.2%	1.5	1.5
中国	18	25	51.4%	71.4%	1.7	1.8
四国	5	14	27.8%	77.8%	1.0	1.5
九州	22	33	40.0%	63.5%	1.1	1.3

(7) 教育支援・協力活動の実施内容別活動数等

- 活動内容の内訳は、調査を開始した平成20年度と同様、「インターンシップ・職場体験」が最多で、全体の55.4%を占める。
- 20年度と比較すると、「教育機関への社会人講師の派遣」の割合が倍増（4.0%→8.9%）。

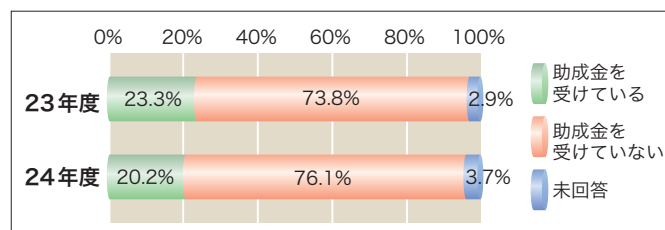
● 教育支援・協力活動の実施内容別活動数等

	20年度		24年度	
	活動数	構成比	活動数	構成比
インターンシップ・職場体験	153	56.0%	225	55.4%
商い体験	8	2.9%	24	5.9%
教育機関への社会人講師の派遣	11	4.0%	36	8.9%
民間企業等への教員の受け入れ	4	1.5%	4	1.0%
地元大学との連携(人材育成等)	25	9.2%	31	7.6%
民間人校長の推薦	0	0.0%	0	0.0%
教育機関(教育委員会等)への参画	15	5.5%	13	3.2%
各種講座・授業の開催	17	6.2%	20	4.9%
その他	40	14.7%	53	13.1%
合計	273	100.0%	406	100.0%

(8) 助成金の有無

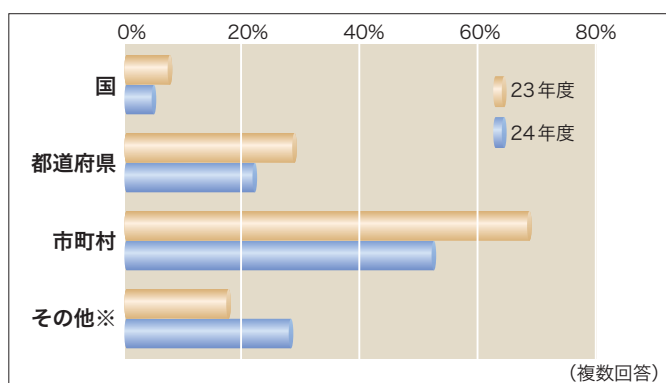
- 教育支援・協力活動を実施するにあたり、助成金を受けているのは、全体の活動のうち約 20%で、昨年同様、助成金を受けていない活動が多数を占める。

●教育支援・協力活動に対する助成金の有無



- 助成元について、昨年と比較すると行政の割合が減り、「その他」（民間企業、団体、学校）の割合が増えている（10.5ポイント増）。

●教育支援・協力活動に対する助成金の助成元

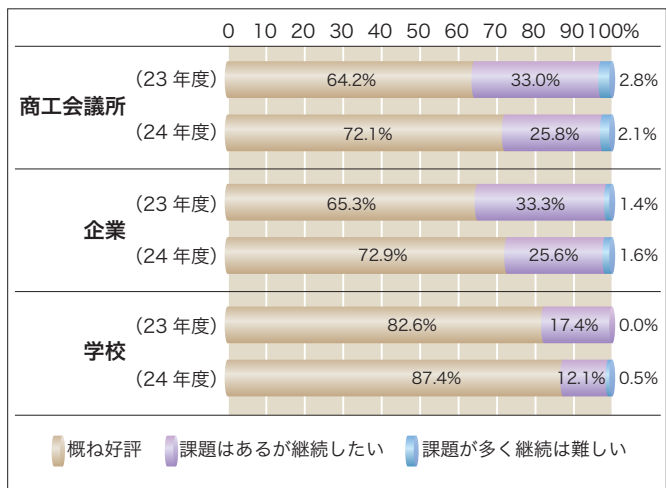


※その他には、「民間企業」、「団体」、「学校」等が含まれる。

(9) 活動に対する評価

- 教育支援・協力活動に対する評価は、昨年同様、商工会議所と企業の回答が、学校より厳しめとなっているが、それぞれ「概ね好評」とする割合が7割を超えた。昨年度のアンケートで多く挙げられた、効果や負担に関する課題の解決が図られていることがうかがえる。

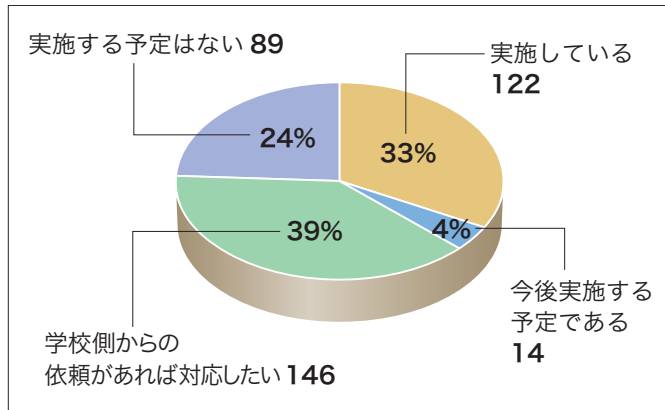
●活動に対する評価



(10) 学校と中小企業を直接結ぶ取り組みの実施状況

- アンケートに回答した 371 商工会議所のうち 122 商工会議所が、中小企業の魅力を学生に伝えることを目的とした情報提供や、大学の就職担当者と中小企業の採用担当者が一堂に会した懇談会の開催など、学校と企業を直接結ぶ取り組みを実施している。
- 「今後実施する予定である」と「学校側からの依頼があれば対応したい」を合わせると、7割以上（282 ヶ所：76%）の商工会議所がこうした取り組みに対して前向きな姿勢を示している。

●学校と中小企業を直接結ぶ取り組みの実施状況



(11) 大学の秋入学やギャップタームに関する意見（主なもの）

<賛成意見>

- 地域社会は、農林水産業の担い手不足、各種賑わいイベントのスタッフ不足、福祉事業の担い手不足等に悩んでおり、また、震災からの復興事業もいまだボランティアを必要としている。各種ボランティア活動を積極的に奨励することにより若年者の社会適応力の向上を図ることが、入学後の視野を広げることにもつながると思う。
- 現在、大学生のインターンシップは、夏季休暇中に限定して行われる場合が多いが、ギャップタームを活用することで、インターンシップの機会を増やすことができる。
- ギャップタームをインターンシップ、ボランティア活動等に使えるれば雇用におけるミスマッチ解消の一助になると考える。
- 今後、投資先や生産拠点となりそうな国の言語・文化や生活慣習、また、流通の仕組み等、基礎調査としての活動にギャップタームが利用されれば、大学で何を学ぶべきか大きなヒントになる。そうした活動を通して、即戦力となる知識を身に付けて卒業すれば企業にとってのメリットも大きい。
- 日本の将来のためには、大学生の学習時間の長時間化を図る改革が必要。そのため、大学生になる前に、積極的に社会と関わりをもたせ、見識を拓けさせることは有効であると考え。

<懸念・問題点>

- 現時点では、企業や公的機関の採用時期が変わらない限り、学生や親の負担が増すデメリットのほうが大きく、積極的な展開は難しいのではないかと懸念される。
- インターンシップ等で職業意識を持ち、大学へ進学する事は大変良い事だと思うが、大勢のインターンシップ希望者が出た場合、受け入れ企業の負担も大きい。何らかの受け入れ支援措置が必要だと思う。
- 学生本人が、明確な目的意識を持って体験活動やボランティアを行えばいいが、目的を絞りきれず、「なんとなく」の体験やボランティアになることが懸念される。

（注）ギャップタームとは、9月に大学に入学するまでの未就学期間のこと。海外では、この期間に社会体験活動、ボランティア活動、留学などの様々な経験を積む機関とする慣行がある。現在、日本においても一部の大学で、9月に入学時期をずらし、高校卒業から大学入学までの期間をギャップタームに充てることが検討されている。また、これに伴い卒業時期も半年間ずれることになる。

(12) 教育支援・協力活動実施商工会議所一覧

コード	会議所名	事業名称	事業内容
101	函館	要望活動	地元の教育大学の新学部新設を要請
102	小樽	インターンシップ事業	市内高等学校生徒のインターンシップ受け入れ
104	旭川	各種講座・授業の開催	旭川と大雪圏域の歴史や文化、観光名所などを総合的に学び、旭川地域の魅力を自信をもって案内できる人材を育成
		教育機関への参画事業	教員採用試験での面接官の派遣
		採用面接対策事業	新規高卒予定者の就職未内定者に対し、地域の関係機関が連携・協力し、早期に就職内定を得ることが出来るよう面接対策を実施
107	帯広	職場体験事業	地元企業への就職を促進するための職場体験
		学校向け出前セミナー（登録講師）	地元への就職支援のため、高校等に講師を派遣し、就職を予定している学生に社会のマナーを学んでもらう
		社会人講師派遣事業	学校に建設・製造・小売・サービス・金融・医療福祉など、様々な業種の講師を派遣し、企業が求めている人材や各業種の現状などを紹介
108	北見	大学との連携事業	地域資源の活用ならびに地域産業の育成に向けた各関係機関の情報共有を図るべく、毎月定期情報交換会を開催
111	網走	就業体験事業（インターンシップ）	地元への定着を視野に高校生の就業体験を実施し、職業意識の向上、自己適正や将来設計の検討材料としてもらう
		商い体験事業	地元高校生が企画したスイーツを、まちなか交流プラザにおいて計6日間（隔週）販売就労体験する
115	深川	インターンシップ事業	商工会議所の事務作業体験
119	紋別	職場体験事業	商工会議所での職場体験受け入れ
124	遠軽	インターンシップ仲介事業	地元企業へのインターンシップ等に係る学校と事業所とのパイプ役
125	江別	インターンシップ事業	地元高校からの依頼により、勤労観・職業観醸成のため商工会議所で受け入れ
127	芦別	合同企業説明会	地元高校生を対象に、ハローワークの就労全般の講話をし、来春採用予定のある企業がPRを行い、各ブースで生徒からの質問応対
133	伊達	高校生のインターンシップ推進事業	伊達市、室蘭公共職業安定所が開拓したインターンシップ受け入れ事業所を取りまとめ、当所の分も含め高校側に紹介
134	苫小牧	職場体験事業	職場体験の場として、地元の高校生・大学生を各1名、3～5日間受け入れ
137	余市	職業を知る会（職業学習）	地元・近隣企業の協力を得て、合同企業説明会の様な企業ブースを設け、生徒に仕事内容等の説明をしてもらい、将来に向けての学習を実施
138	千歳	インターンシップ事業	高校からの依頼を受け、職業観の醸成、社会人のマナーを教える
		販売土養成講習会	販売土養成講習会を実施
140	登別	インターンシップ事業	地元高校事業の支援として、就業・就職のインターンシップを実施
141	恵庭	職場体験事業	中学校からの依頼により職場体験を受入れ
142	石狩	職場体験学習、企業・上級学校見学会	職場体験学習（インターンシップ）の地元受入先企業の要請と選定、および企業見学会の受入先地元企業の要請と選定
202	弘前	未来の商人を育成する「キッズ☆カンパニー」	弘前YEG「未来の商人創造委員会」で事業運営。説明会、販売の勉強会を実施。「津軽の食と産業まつり」において出店予定
		高校生ビジネスプランコンテスト	高校生に自由な発想でビジネスプランを提出してもらい、研修を実施し、経営の基本理念・戦略等を盛り込んだ内容にまとめ、プレゼンする
		弘前大学キャリア教育	地元弘前大学の依頼を受け、会議所会員事業所代表者や会議所職員が、臨時講師として講義を担当

203	八戸	Kids Fun Town ～こども商店街をつくろう～	中心商店街各店が子ども達を対象に、それぞれの簡単な業務（接客や商品製作・販売等）をレクチャーし、就業体験を実施
		インターンシップ事業	当所受付業務のほか、Buyはちのへ運動業務の補助、商工ニュース取材など
		さわやか八戸グッジョブウィーク	中心街施設「まちの駅はちのへ」にて中学生の職場体験
204	十和田	社会人講師派遣事業	中学校より依頼を受け、当所専務理事が講師として「職業観について」の講演
		職場体験事業	地元中学校の依頼により、約30名を受入れ。当市の産業等についての話と当所の事務内容について説明
205	黒石	インターンシップ事業	文書の発送、パソコン入力等の作業体験
207	むつ	インターンシップ、職場体験、職場見学（街体験）	地元企業での職場体験および見学を実施
301	盛岡	キッズ・マート	商店街の近隣に所在する小学校3年生を対象に、1か月程前から事前学習を行い、商店街路上でワゴンにより販売
		インターンシップ仲介事業	大学生（専門学校生）の希望・要望する体験内容・期間を調整し、職場体験（インターンシップ）の場・機会の提供
303	一関	大東高校出前講座	地元高校が主催し、1・2年生を対象に地域の産業・環境問題・福祉などの講座を開催。地域の発展への取組みについて、講師として職員を派遣
304	宮古	職場体験事業	3日間の職場体験を実施
		チャレンジショップ支援	高校生の営業販売の体験を支援
305	花巻	地元大学との連携による人材育成・企業支援	インターンシップ・職場体験による学生の育成。地元大学で9月と11月に職場体験受け入れ
306	奥州	インターンシップ事業	地元への就職促進のためのデータ入力等の作業体験
401	仙台	インターンシップ事業	大学から学生を受け入れ、企業見学や会議所の会議や事業への参加、専門講師によるマナー研修などのカリキュラムを実施
404	気仙沼	三陸産業再生ネットワーク	被災企業が抱えている生産体制の構築や風評被害対策といった課題解決活動を展開し、地域産業を持続させるべく事業継続策について検討
501	秋田	新規高卒者・中小企業等就職促進セミナー	来春卒業の高校生と保護者、学校関係者を対象に、地元中小企業の魅力を十分に理解してもらう情報交換の場を設定
503	大館	インターンシップ事業	高校からの依頼によりインターンシップを実施
504	横手	県南地区職場研修事業	就職希望の高校卒業予定者が、あらかじめ学生受け入れを受託した事業所の中から企業を選び訪問。その企業の見学と説明を実施
		インターンシップ事業	高校生2年生を受入れ、3日間会議所の事務作業を体験
505	湯沢	職場体験事業	地元高校からの依頼で、数名を当商工会議所の職場体験として受入れ
506	大曲	インターンシップ事業	全国花火競技大会における事務系の作業体験
601	山形	インターンシップ事業	商工会議所業務の体験
602	酒田	インターンシップ事業	5日間、勤務時間の商工会議所業務を事務所で体験
		高校3年生模擬面接会	ハローワーク酒田管内の高校3年生を対象とした面接指導会、事業所の人事担当者に面接官を務めてもらい、各校混合で個人面接を実施
		高校生就職試験会議7ヶ月前セミナー	ハローワーク酒田管内の高校2年生を対象に、講師から就職に対する心構えや就職に関する質問を受ける内容
603	鶴岡	ものづくり体験インターンシップ事業	登録企業と学校との受入窓口の調整
606	長井	インターンシップ事業	大学教授からの依頼により、各種事業においてインターンシップを実施。また、直接大学からの要請により、当所自ら体験の場として受け入れ
		西置賜地域就職支援コーディネーター設置事業	地元高校と地元企業を繋ぎ、先生、保護者、企業の人事担当者と連携しながら、就職支援を実施

607	天童	天童少年少女発明クラブ	天童市教育委員会との連携により、市内小学校3～6年生を対象にものづくり講座を実施
		未来の職業を考える職場見学会	製造業コース2社とサービス福祉コース2社の2コースに分かれ、バスをチャーターして各社の見学会を実施
702	郡山	郡山地域インターンシップ推進事業	企業への就業体験受け入れ募集。大学等への就業体験参加募集　学生と企業のマッチング・就業体験インターンシップ報告書の作成と報告会の開催
703	会津若松	インターンシップ仲介事業	市教育委員会を通して希望した学校へ、体験受入事業所の紹介
		職場体験事業	商工会議所での職場体験生の受入れ
		職場体験事業	職業訓練を修了したのち、事業所での職場実習の受け入れ
705	白河	産業現場実習	商工会議所業務の体験
707	会津喜多方	商い体験事業	商工会議所主催である「喜多方レトロ横丁」に模擬店を出店
802	上越	上越「ゆめ」チャレンジ	中学2年生の職場体験を行うに当たり、事業所周知および受け入れ企業を募集
		職業意識啓発セミナー	高校生の保護者向け職業意識啓発セミナーを実施
803	長岡	起業家塾	ビジネスモデル・プランの作成、発表、評価と「ビジネスグランプリ in 新潟」への応募
		インターンシップ推進事業	大学生を対象とするインターンシップ推進事業
804	柏崎	高校生インターンシップ推進地域協議会	「高校生インターンシップ推進地域協議会」に参画。地元工業界におけるインターンシップ受け入れ先の確保等を支援
806	新発田	新発田インターンシップ事業	新発田インターンシップ事業推進協議会を設置し、同事業の推進を図る。学校側と受入企業の仲介を行ない、受入企業を募集し、学生を派遣
807	新津	職場体験事業	商工会議所で職場体験受け入れ
808	燕	職場体験学習	エコカップのポーチ検品作業
		市内企業見学会	市内中学校の生徒が、市内企業（製造業中心）を訪問して、現場の作業内容を見学したり、会社概要を聞いて理解を深める
809	小千谷	中学生のあきんど体験	当所主催の「100円笑店街」に、中学生が1日店舗を開店し、商いの勉強をするとともに、店頭に立ち、販売のお手伝いを体験
		小千谷地域ブランディング・プロジェクト	小千谷地域にある文化・歴史資産を新潟大学の学生から、発掘・調査・研究をしてもらい、小千谷のブランドコンセプトを確立
815	五泉	特別支援学校就労体験	特別支援学校の生徒を対象に、就労体験事業を実施
816	亀田	インターンシップ事業	今後の就職活動に役立てるため（高校生）中学生においては、地域にどのような企業があるか、また、その企業を通して体験
901	富山	インターンシップ事業	大学生（3年）を受け入れ、商工会議所が実施している事業（イベント、バスツアー等）や業務（巡回指導等）を体験
		とやま産業観光モニターバスツアー	富山市周辺地域の最先端企業や伝統産業、観光施設などの産業観光施設を訪れ、企業からの概要説明や体験学習などを実施
		学店	オリジナル弁当を商品開発し、利益目標を目指す事業
903	氷見	富大共同広告制作事業	大学3年生（芸文学科）を対象に、地元事業所・商店のチラシやPRポスター制作を授業に取り入れ
		市内企業研修会	市内企業7～8企業を2コース設定で昼食を挟み、見学・講話等を体験
904	射水	新湊高校ジュニアインターンシップ	地元の高校3年生（希望者）が毎年11月に3日間、受け入れ先企業で職場体験を実施
906	砺波	14歳の挑戦	中学校（4校）と各種団体が手を組んで中学生の就業体験の実行委員会に商工会議所が参画
		砺波工業高校生・市内企業見学会	地元の工業高校の生徒に、仕事の現場を見ていただき、感じていただく工場協会事務局を商工会議所が受託

907	滑川	夏休み子供企業見学会	商工会議所主催、小学校5・6年生向けの企業見学を実施。大型バスで見学先企業へ向かい、企業見学を行う
1004	輪島	職場体験事業	商工会議所で、3日間の職場体験を実施
1005	加賀	産業人材育成事業	高校生、社会人に対する総合的な産業人材育成支援。高校での国家資格取得支援および社会人講師の派遣費用を支援
1006	珠洲	わくわくワーク体験	企業へ出向き、3日間仕事に従事。仕事を体験することで、職業観を勉強（中学）
		インターンシップ	企業へ出向き、3日間仕事に従事。仕事を体験することで、職業観を勉強（高校）
1007	白山	一年生「職場体験学習」	「職場体験学習」として1年生を商工会議所に受け入れ、軽微な事務を体験
		ビジネスキャリアコース・インターンシップ	ビジネス実務学科の学生を商工会議所で受け入れ、受付業務や軽微な事務を体験
1101	上田	インターンシップ事業	原則として2週間のインターンシップを実施。企業、学生の都合により期間設定
1103	松本	職場体験事業	松本工業高校の2年生全員に対して、3日間の職場体験を実施（平成24年度は、79事業所に対して188人の学生が職場体験）
		松本大学企業説明会・企業見学会	松本大学が主催の企業説明会を開催するにあたり、企業募集を手伝うとともに、高等学校の生徒を対象に、企業見学会を実施
		2012 まつもと広域ものづくりフェア	「ものづくり体験教室」、「科学教室」の開催。企業が有する固有技術を使った製品の展示、デモンストレーション等を実施
1104	飯田	親子で行く。夏休み産業見学ツアー2012	小学生とその保護者を対象に、地元企業の見学と体験を実施
1108	須坂	企業見学事業	市内小学校5年生を対象に、1校1企業を見学
1109	伊那	地元企業のPR事業	HPでの企業紹介のチラシ掲載、大学生のインターンシップ等を依頼、学生からのインターンシップの問い合わせの対応と企業紹介
1111	塩尻	企業訪問事業	松本歯科大・産学官連携による研修、技術開発事業　高校生の就職に関する市内高校と連携した企業訪問
1112	小諸	職場体験仲介事業	地元商業高校の夜間部の生徒の職場体験を受け入れる企業を探し、紹介
1115	駒ヶ根	インターンシップ事業	具体的な職業への意識向上、勤労の尊さ等、教育の一環として、地元高校商業科の生徒を受け入れ
1116	大町	インターンシップ事業	市内事業所数社に対し、2～3名の生徒を派遣し、職場体験を実施。体験終了後、個々の感想・意見を学校側で取りまとめ
1118	佐久	イベントさく市での「ステンドグラス手づくり体験」	日頃の履修状況を市民一般に公開し、学校教育の現場を知ってもらう。多くの市民の皆さんがステンドグラス加工を体験
		高校生の就職促進のための地元事業所見学会	大型バス10台（約400人の参加）で地元企業を訪問し、高校生が企業の実態を知る機会の提供
		就職ガイダンス	約40社の企業が同一会場で、地元企業との就職マッチング
1201	水戸	水戸商工会議所中心街まちづくり事業　学生サポーター事業	水戸市中心市街地活性化へ向けて、学生が連携し、「文化重層都市」を実現するために「学生サポーター組織」を運営
1203	古河	インターンシップ事業	商工会議所の歴史と事業内容について、古河市の歴史と市内産業（商業・工業）の変化と現状について説明するとともに、会議所業務の一部を体験
1204	日立	高校生のインターンシップ	毎年10月の3日間、商工会議所工業部会および交通運輸業部会会員事業所の協力を得て、職場体験事業を実施
		日立市職業探検少年団ひたちものづくり探検少年団	会員事業所の協力を得て、ものづくり体験や工場見学等を行い、職業体験を実施
		技能五輪メダリスト活用人材育成事業	市内大手事業所や、中小企業の技能五輪メダリストやその指導者が、学校等で競技種目の模範演技や、ものづくりに関する講話や懇談を行う

1205	石岡	インターンシップ事業	2日間の受け入れ。事業概要を説明後、新入社員のマナー等のビデオ視聴、ビジネス文書作成等のパソコン操作、その他事業の補助作業
1302	宇都宮	若年者地域連携事業	学校が開催するビジネスマナー講習会に専門講師を派遣。就職面接の準備のためのガイダンス等へ専門講師を派遣
		社会体験学習「宮っ子チャレンジウィーク」	中学2年生を対象に、月曜から金曜の5日間で体験学習を実施。百貨店およびスーパーマーケットとの調整
		宇都宮アンテナショップ「宮カフェ」事業	小学生を受入れ、飲食、物販店等において、接客や店舗準備等の作業を実施
1303	足利	足利市学生チャレンジショップ	まちなかの賑わい創出に寄与し、学生の起業心醸成、駅の向上につなげるため、中心市街地の空き店舗を活用して店舗づくりと販売体験を実施
		足利5S学校	市内の県立高校（足利工業学校、足利清風高校）において足利流5S運動（整理・清掃・整頓・清潔・躰）に取り組み、「社会に出て通用する人づくりの基本と人間性豊かな産業人育成」に成果を上げている
		マイ・チャレンジ推進事業	市内の中学2年生の職場体験活動として毎年実施。商工会議所では本事業推進会議委員として参画し、事業所の推薦および中学生の受け入れを実施
1306	日光	インターンシップ推進事業	栃木県産業教育振興会が運営するインターンシップ連絡協議会が実施するインターンシップ事業に協力
1401	高崎	インターンシップ事業	イベントの手伝い資料作成等を通して礼儀、あいさつ等、人間関係の基本を体験
1402	前橋	インターンシップ事業	大学生の受け入れ、企業紹介
		まちなかキャンパス	市内近隣の大学、専門学校、その他教育機関、市民団体、商店街等と連携し、市と共催で中心市街地を会場に年間200コマ以上の講座を開催
		前橋工科大学産学連携フォーラム	前橋市立前橋工科大学と地域産業界との情報交換
1403	桐生	高校生就職ガイダンス	市内優良企業の総務及び労務担当者を招聘し、就職希望者の多い高等学校へ派遣　就職に対する取り組み・職業選択の考え方を講演
1404	館林	東洋大学生実務研修（インターンシップ）	イベント開催の企画・運営業務（会議出席・関係者対応）研修会等参加、中小企業カウンセラーに同行その他商工会議所事務補佐研修
		県立高等学校評議員	群馬県立館林女子高等学校・群馬県立館林高等特別支援学校の評議員に就任
		中学校職場体験	職場体験受け入れ事業所を募集する　平成23年度は、186の事業所に、中学2年生726名が職場体験学習を実施
1405	伊勢崎	職場体験事業	地元商業高校からの依頼により、3日間の職場体験を受け入れ
1406	太田	インターンシップ事業	市立商業高校の生徒に商工会議所の歴史や役割り、事業について説明
		チャレンジショップ運営事業	街なかの空店舗を商工会議所が借り上げ、家賃補助を行いながら生徒が農協から仕入れた野菜等を販売
1502	川口	川口若手ものづくり人材育成プロジェクト	連続して3日間企業に出向き、就労体験
		川口若手ものづくり人材育成プロジェクト	企業の技術者を学校に招き、旋盤・溶接・板金・半田付け技術の実践的事業を実施
		川口若手ものづくり人材育成プロジェクト	工業高校教頭及び生徒が講師となり、簡単な工作体験（鋳物製表札、ラジオ、LEDスタンド等全7コース）
1503	熊谷	企業説明会	大学主催の企業説明会の支援
1504	さいたま	インターンシップ事業	市内工業高校の生徒を対象に、ものづくり企業へのインターンシップ、デュアルシステム、工場見学会、高度化支援事業を展開
		少年少女発明クラブ	少年少女発明クラブ、彩の国ロボット工房への参画
1506	秩父	大学生等合同就職説明会	秩父の企業見学および説明会を開催
1507	行田	インターンシップ事業	商工会議所でインターンシップ学生を受入れ

1513	飯能	職場体験事業	商工会議所が出資する㈲フォレストバレーの「あけぼの森の店」にて、職場体験
1515	狭山	さやまものづくりインターンシップ	狭山市内の製造業と学生のマッチングを行い、インターンシップ先を確定。学生は夏休み期間中に約1週間企業を訪問し仕事を学ぶ
		インターンシップ事業	埼玉県立緑陽高等学校の学生に、職業体験の場として市内の企業（サービス業・小売業等）を紹介
		ビズキッズユース	中学生が商売の仕組みについて学び、市内の大学の学園祭において学生自らが決めた商売を実施
1516	草加	草加モノづくり探検隊事業	小学生とその保護者が、市内のものづくり企業や農家を訪問し、製造体験や農作物収穫体験を実施
1602	千葉	インターンシップ事業	学生の会員事業所への派遣。大学・事業所のインターンシップ懇談会の開催
1603	船橋	インターンシップ事業	商工会議所でインターンシップ受け入れ
1606	松戸	インターンシップ事業	大学からの依頼に応じて、学生を受け入れ（1か月程度のものから、半年間にわたるものまで）
1609	野田	職場体験事業	商工会議所で職場体験を受け入れ
1612	東金	インターンシップ事業	商工会議所内における軽微な業務、雑務補助。経営指導員の巡回に同行させ、管内の実状の見学等
1613	柏	職場体験事業	市内中学生20名が「中学生から見たものづくり企業」というテーマで取材した企業紹介ビデオを作成。中小企業展において放映等
		職場体験事業	専門学校からの委託により、職場訓練の実施および能力評価の実施
		職場体験事業	地元大学からの委託により、就業体験の実施
1615	習志野	先端ものづくりチャレンジ　イン　習志野	知能ロボット競技部門、ロボットキット製作部門、こども絵画コンテスト部門、展示部門（企業、大学等の製品・技術・サービスのPR）
		地域産業再発見　「学生による工業見学会」	千葉工業大学と連携し、機械サイエンス学科3年生が授業の一環として「製造現場の実際」をテーマに地域の工場見学を実施
1616	成田	現場学習（インターンシップ）事業	会員企業での現場学習
1701	東京	東京都教員採用候補者選考に係る面接委員推薦	東京都公立学校教員採用試験における民間人面接委員の推薦
		東京都公立学校教員10年経験者研修「社会体験」受入企業紹介	東京都公立学校10年経験者研修先を募り、先方に紹介
		キャリア教育支援事業	墨田、豊島、荒川等支部において、「職場体験事前学習」「サッカー教室」「東京大学・早野教授特別講義」等を開催
1703	武蔵野	インターンシップ事業	学校からの申し出により、インターンシップ、職場見学を実施
1707	町田	地域で支えよう町田っ子の未来探し	町田市全体をあげて中学2年生を連続5日間、各職場に受け入れ、生徒が自分の生き方を考える「未来探し」を応援
		インターンシップ事業	学生の職業訓練（実習コース）計画を立てOJTを実施。日報を作成し効果を報告、最終日には職員の前で実施期間の報告会を実施
		社会人インタビュー	高校生がグループ（2～4人）で、市内企業を訪問し、社長、社員等に事業概要や、やりがいなどをインタビュー（1～3時間）
1708	多摩	多摩市立中学校「未来を拓く職場体験」	多摩市内の全中学2年生を対象に、5日間の職場体験を実施。「多摩市職場体験受入れ事業所登録制度」を立ち上げ、300を超える事業所」を登録
1802	横須賀	よこすかキャリア教育推進事業	職場体験受入協力事業所の拡充、教育プログラムへの参加事業所の確保、中学校に講師派遣する教育プログラムを実践

1803	川崎	川崎インターンシップ事業	市内7つの大学の学生を対象に、夏季休暇を利用して、商工会議所会員事業所にて就労体験
		地元大学との連携事業	空き店舗を有効活用し、パソコン教室の開催、米粉を使った新商品開発、洋菓子、和菓子店の協力を得て新商品の発表会など
		専修大学との連携協力事業	学生インターンシップ学術研究及び教育の実践、教育研究施設の利用、新たな社会経済及び地域社会づくりに向けた政策研究
1804	小田原箱根	民間企業での教員受け入れ事業	神奈川県西部県立高校の新任教職員を対象に、夏休み期間を利用して民間企業への職場体験を実施
1805	平塚	インターンシップ事業	地元大学と提携し、学生1名が7日間、商工会議所をはじめ企業に就業し、当所作成のカリキュラムにより業務を体験
		商い体験事業	空き店舗対策として当所が運営する「手づくり食工房」の店舗において、地元農産物や名産品を仕入れから販売までを行い、商売を実践
		平塚市民大学交流委員会事業	音楽・演劇などの文化交流事業、スポーツ交流フェスタ、親子で遊ぼうフェスティバル、里地里山再生プロジェクト、観光プロジェクトを実施
1807	茅ヶ崎	ビジネス体験隊	小学校5、6年生が大学生ボランティアとともに、各担当役職をもち、市場調査から仕入れ、販売まで一連のものづくりと販売体験
1808	厚木	インターンシップ事業	商工会議所への理解および経営者との交流を図るため、地元の短期大学生を受け入れ、当所事業の手伝いや事業所の案内チラシを作成する等の職場体験
		「合同就職説明会」	新卒の学生（大学、短大、高専）を対象に、厚木市内の企業の就職説明会を実施。同時にキャリアコンサルタントによる就労相談も実施
1812	相模原	インターンシップ事業	商工会議所でインターンシップ受け入れ
1814	海老名	湘北短期大学インターンシップ学生受け入れ	小規模事業者経理システムデータ入力作業、事務局事務作業補助
1901	甲府	医療関連ものづくり交流会	山梨大学医学部との連携により、会員企業がものづくりを通して、「医療現場」に役立つ製品の事業化　等
1902	富士吉田	産学官連携事業の後援	産学官連携の研究開発事業（サポイン等）　ファッションデザインコンテストの後援
2001	静岡	インターンシップ推進事業	商工会議所で大学生のインターンシップを受け入れ
		静岡熱血教師塾	市教育委員会が実践力のある新規採用教員（小学校）の人材育成のために開講している「静岡熱血教師塾」へ委員を推薦し運営協力
2002	浜松	職場体験事業	自らの社会的責任を自覚してもらうため、商工会議所業務を体験
		やらまいかブランド	当地域の「特産品」や「隠れている優れた製品」に対してブランド認定事業を行っている。認定事業所の小中学校での講座の開講
		浜松科学館運営委員会	科学・ものづくり教育にを地域産業界として支援するため、各種企画の策定・運営に協力（委員として）
2003	沼津	社会人講師派遣事業	経営者が高校に出向いて、企業の求める人物像等について1時間程度の講演
2005	三島	三島地区職業体験活動推進事業「ゆめワーク三島」	市内の中学2年生を対象に、3日以上職場体験の実施（農業、商業、工業、観光、福祉、保育、教育など）
		三島少年少女発明クラブ	三島の児童に対して、各種講座の実施（工具の使い方、創造コンテスト課題作り、紙工作、アルクロボ作り、工場見学等）
		個店魅力アップ支援事業	高校生による商店会の店舗（9店）のデザイン発表会を実施、会後に、飾り袖看板を作成、各店舗へ設置
2006	富士宮	インターンシップ事業	近隣大学からの会員企業および会議所へのインターンシップ受入の要請に対応

2007	富士	インターンシップ事業	地元大学の3年生のインターンシップを受け入れ。地域産業の歴史、現状、課題について解説し、商工会議所事業の実務体験
		ジョブ博	2日間で11,400人来場。「職業体験ブース」12社、「ペーパークラフト展とワークショップ」、「ライトノベル創作教室」、「職業パネル展示」36社
2009	磐田	静岡産業大学定例参与会	大学の運営方針を検討
		地産地消弁当「いわた飯」	地元食材を使用した地域おこし弁当「いわた飯」製作にあたり、ネーミング、掛け紙デザイン、食材の選定、商品の販売等に協力
		静岡理工科大学インターンシップ	インターンシップ受入参加企業への協力
2010	伊東	職場体験事業	中学校からの依頼により、職場体験可能な企業の紹介および商工会議所での受け入れ
2012	島田	人財ネットワーク	学校側の要望に応じた講師を登録者の中よりコーディネートして派遣
2015	藤枝	インターンシップ研修	地元大学生を対象に2週間程度、商業、工業について研修
2102	大垣	社会人講師派遣事業	大学院生を対象に実施した授業「経営実践研究」の講師として、会員企業の実務担当役員および商工会議所職員をあつせん、派遣
		社会人講師派遣事業	地元の大学と商業高校が連携し、高校生を対象に実施した授業「起業家教育」のカリキュラムのひとつの講師として商工会議所職員を派遣
		インターンシップ事業	地元高校生が、地域の観光施設やイベントの来場者に対面アンケート調査を実施
2103	高山	新規学卒者就職ガイダンス	少子高齢化の中で各企業に必要な労働力の確保、特に若年労働者の確保と定着のために就職ガイダンスを実施
2104	多治見	クールアイランド事業	当地が日本一暑い街になったことをきっかけに、大学の販社に関するノウハウを利用して新製品開発
2106	中津川	インターンシップ事業	市内の事業所における中学生を対象としたインターンシップを実施
2108	神岡	職場体験事業	商工会議所で地元中学生の職場体験を実施
2112	各務原	各務野立志塾	トップリーダーからの講話、講師と教育委員との懇談、等
2115	羽島	キャリア教育事業	社会人講師派遣。小学校職場見学のバス代助成。職場体験先の紹介
2122	安城	食育啓蒙事業	「桃太郎と梨太郎」の劇により食事バランスガイドの活用方法をPR、「朝食レシピ」を考案し、産業フェアにて試食の作成とレシピ配布
2201	名古屋	名古屋商工会議所冠講座	名古屋市立大学と連携し、県内の大学生であれば大学問わず単位取得が可能となる講座の開設。講師陣は第一線で活躍中の方々に依頼
		産学パートナーシップ NAVI	WEB上のシステムを利用し、企業のニーズと大学や公設試験機関を名古屋商工会議所の仲介で結びつける
2203	豊橋	インターンシップ事業	地元の中学校（1校）および大学（1校）の要請に基づきインターンシップ・職場体験に協力
		ビジネスパーク 2011	地元中学校の生徒を対象に、青年部会員、女性会会員等が講師となり、未来ある子供たちに地元企業への理解などを深めてもらうための講演
2204	半田	半田教育改革協議会	教育問題や家庭教育などについて協議・議決し、半田市教育委員会および各種団体への提言。また教育改革に資するに必要な活動を実施
		学校運営協議会の支援活動	モデル校3校の支援活動を行う担当者を決め、学校運営協議会にオブザーバー出席して、支援活動を実施
		職場体験事業	職場体験受入可能な事業所のリストを作成し、教育委員会、市内5中学に配布。事業所と担当の先生との懇談会を実施。
2205	一宮	職場体験事業	商工会議所が、市内の中学生2名の職場体験学習を受け入れ
		地域魅力発掘育成事業	「いちのみや食ブランド認定商品」として認定した商品のPR活動、ITを活用した情報発信、地元高等学校との連携による試作品の開発など
		一宮モーニングプロジェクト	学生達による地元地域の食材を使用した新しいモーニングメニューの開発・提案、「モー1グランプリ」の集計・分析

2206	瀬戸	瀬戸キャリア教育事業	体験型ワークショップ、貿易ゲーム、瀬戸版ドリームマップ、農業体験・販売実習、職業講座、マナー研修体験学習プログラム、職場体験など
2207	蒲郡	「現代社会の経済と経営」特別講義	愛知工科大学へ特別講師の派遣
2208	豊川	高校生インターンシップ受け入れ事業支援	商工会議所会員事業所の中で高校生のインターンシップを受け入れ可能な事業所を登録し、高校に対し情報提供
2213	西尾	インターンシップ事業	鶴城丘高校2年生が夏休みの4～5日間、企業の作業現場などに入り、希望職種や学習内容に関連した就業を体験（小売・卸・サービス・製造業）
2215	春日井	インターンシップ事業	地元大学の学生を商工会議所にインターンシップとして受け入れ、商工会議所事業の周知と勤労観の醸成に寄与
		社会人講和会	地元の高校に商工会議所会員事業所の社長が出向き、1時間講演。企業の役割や働くことの意義、社長個人の人生観も交えながら講話
		中部大学応用化学学科創生実習	課題のある企業へ学生が4～5か月の間、週に1度企業に出向き、社員と一緒に becoming 課題解決を図る（長期インターンシップのようなもの）
2220	犬山	インターンシップ事業	地元大学3年生を商工会議所に2週間、2名程度、地元県立高校2年生を7名程度、企業へインターンシップの依頼
2301	四日市	インターンシップ事業	商工会議所でのインターンシップ受け入れ
		講演会の開催	地元の経済状況の案内・周知と就職促進・職業観の育成のために、社会人公開講座での会頭講話
2302	津	就業体験受入事業所確保に関する業務	就業体験受け入れ事業所確保のための周知広報・事業所訪問およびマッチング・概要説明、支援助成・就業体験の事前指導のための高校への講師派遣
2303	伊勢	環境インターンシップ	三重大学が実施する環境関連の教育プログラムの一環として、毎年10日間にわたって2名のインターンシップ生を受け入れ
		ビジネスパーク伊勢	中学生に2講座を選択させ、経営者から仕事内容や現状を説明する“公”と、自らの苦労話や夢などを話す“私”について授業
		地元企業の経営者による出前トーク	地元工業高校の1、2年生を対象に、商工会議所会員事業所3社（機械・電気・建設関係）の経営者より、会社の内容や考え方、経験などを講義
2304	松阪	インターンシップ受入事業所確保支援事業	地元高校のインターンシップ事業に対し、受け入れ事業所の確保を支援
2306	桑名	製造関連部会による桑名工業高校インターンシップ	桑名工業高校2年生全員が5日間のインターンシップ事業に取り組むための学校との橋渡し役として、事業所開拓や運営の協力
2307	上野	インターンシップ事業	商工会議所会員事業所へ、インターンシップ受け入れ募集のチラシ案内および紹介等。インターンシップ反省会の実施
2308	亀山	インターンシップ事業	商工会議所で、中学生を対象としたインターンシップを受け入れ
2309	尾鷲	キャリア教育推進東紀州連携会議	地元（尾鷲）高校の技術系学科2年生のインターンシップ受け入れ先企業の開拓。就職状況などについての関係会議を開催
		インターンシップ受入事業所確保支援事業	三重県からの委託事業で、地元（尾鷲）の生徒に向けてマナー習得講座を実施
2311	鳥羽	インターンシップ事業	市内26企業での高校生受入れ
2313	熊野	インターンシップ講演会	地元高校の3年生を対象に、12月と1月の2回、専門家講師を招聘して講演会を実施。職場のマナー、社会人としての心構え等の講習を実施
2402	敦賀	こどもお仕事体験	「仕事の楽しさ」、「収入を得る喜び」を体感させるため、中郷公民館で「こどもお仕事体験」を開催（小学生5～6年生57名が参加）
		企業連携型地域産業担い手育成事業	①コーディネーターの配置②非常勤講師の派遣③職業教育アドバイザーの派遣
		インターンシップ仲介事業	中学生のインターンシップ事業への企業情報提供

2404	大野	職場体験事業	地元職業系高校からの依頼により、当所において3日間の職場体験受け入れ
		学校活動の紹介	商工会議所が主催する「おおの産業フェア」において、職業系高校生の成果発表の場を提供
2406	小浜	ふるさとしごと塾	地元企業経営者等を学校に派遣し、「はたらくこと」についての授業を実施。また、企業見学を実施
2407	鯖江	職場体験事業	市内中学校からの依頼により、中学生2名を商工会議所で受け入れ
2501	大津	アクティブハイスクール事業	コミュニケーションの重要性、ビジネスマナーを身に付け、望ましい職業観、勤労観を習得。専門的な業務に携わることで、自らの適性を探求
2502	長浜	長浜バイオ大学キャリア教育プログラム	働くことや若者への期待など、長浜まちづくりの魅力を発見し、発信
2503	彦根	彦根 YEG わーくメッセ	職業体験ブースで、子ども達が様々なお仕事を体験。商品販売ブース、商品展示ブースを運営。また、特別ブースとして、東北地方の物産の販売
		彦根市青少年少女発明クラブ	電気を使った各種工作教室の開催など
2504	近江八幡	県立八幡工業高等学校アントレプレナーシップ	商工会議所の工業部会が中心になり、工業高校7クラスに地元の企業から講師を派遣し、仕事の取り組み、それぞれの企業の技術、商品を紹介
2505	八日市	インターンシップ事業	商工会議所会員企業からインターンシップ事業の受け入れ先を募集し、地元大学の学生が就業体験
2506	草津	職場体験事業	商工会議所で中学生3日間、大学生2週間の職場体験を受け入れ
2507	守山	商い体験学習	地産地消をテーマに市内の4中学校がアイデアを出しながら、守山産の食材（野菜・米などの農産品）を使って商品化し販売
2601	京都	O／OCF－PBL（On /Off Campus Fusion-Project Based Learning）	企業から提供する課題に学生が取り組み、大学教員や課題提供者の支援を受けながら、学生が解決するプロセスの中で社会人基礎力を育成
2603	福知山	インターンシップ事業	地元大学のインターンシップ生を受け入れ、職場体験を実施。会員企業へも受け入れを呼びかけ
		各種講座・授業の開催	商工会議所が取り組んでいるまちづくり事業・伝統的行催事などについての授業を実施。事業の中で小学生が参加できるイベントも企画
2605	宇治	インターンシップ推進事業	商工会議所で大学生のインターンシップを受け入れ
2607	亀岡	インターンシップ事業	京都学園大学経営学部3回生の学生の要請により、亀岡商工会議所で10日間受け入れ、職員指示のもと業務実習を実施
2701	大阪	大阪企業家ミュージアムの運営	大阪を舞台に活躍した企業家（松下幸之助氏ら105名）の事績をゆかりの品やパネルで紹介する「大阪企業家ミュージアム」を運営
2703	東大阪	インターンシップ支援事業	近隣の学校等に企業ガイドを配布。インターンシップ生の受け入れ、ものづくりの実務体験、インターンシップ生の職場体験事例集の作成
2704	泉大津	社会人講師派遣事業	地元企業のオーナーが、大学生へ自社の経営理念やノウハウ・考え方を講義（年間6回）
		工場見学事業	高学生を中心に繊維製品の工場見学と泉大津でできるものを説明
2705	高槻	インターンシップ事業	大学からインターンシップの要請があり、学生1名を2週間、商工会議所で受け入れ、就業体験の場を提供
		大阪府立高槻支援学校協議会	高槻支援学校の課題等について年間3回程度の協議会で検討し、アドバイス。特に、商工会議所は就労支援を実施
2706	岸和田	インターンシップ事業	学生が職場体験を受けられるよう、受け入れ企業の紹介や商工会議所で受け入れ
2708	茨木	職場体験事業	大学からの依頼により、夏休み期間中の学生を受け入れ、夏のフェスティバル運営、市内事業所情報の整理などを体験
2710	八尾	教員受け入れ事業	市内小中学校の教員を商業・工業・サービス業の企業で1週間程度受け入れ

2711	豊中	豊中チャレンジプラン「地域体験学習 CUL（カル）」	職場体験学習を受け入れいれる企業への広報周知、協力依頼等
		社会人講師派遣事業	大阪府立桜塚高校1年生9クラスに対し、それぞれ事業経営者（9名）を派遣し、産業活動の実態等を講義
2713	泉佐野	郊外学習会	小学生が地元商店街を訪問。各業種の商店を調査。店の商い方法や商品の構成についてヒアリング
2714	北大阪	北大阪版 ジュニアエコノミーカレッジ	5名のチームで模擬株式会社を設立し、事業計画を作成、資本金を集め商品開発から実際に販売を行い、決算報告、税金納付（寄付）までを体験
2715	守口門真	職場体験事業	大手量販店を中心に、各商業施設に協力していただき、毎年70～80名程度を受け入れ。研修期間は3日間程度
2717	高石	大学等就職担当者向け地元企業見学バスツアー	大学等の就職担当者に対し、地元中小企業の魅力を伝えることを目的に、地元企業の見学ツアーを開催
2718	箕面	ゆずともみじの里・みのお推進事業	地元、箕面市止々呂美地区にて収穫される実生ゆずを利用した商品開発（ジュース、クッキー等）
2720	大東	インターンシップ仲介事業	学校からの要請に基づき、協力見込みのある企業を紹介
2801	神戸	平成24年度インターンシップ受入れ事業	商工会議所で大学生の職場体験を受け入れ
		兵庫県産業教育振興会への参画	産業界と産業教育界との連携促進
		平成24年度大学間連携共同教育推進事業	学士課程教育の質的向上をはかるため、連携大学における教学評価体制を構築
2802	姫路	社会人講師派遣事業	姫路獨協大学で開講中の「キャリア形成各論」において、社会人講師として、副会長・青年部会長等を派遣
2803	尼崎	アマガサキインターンシップ事業	「連携協定」を締結している大学の学生を対象に、商工会議所で1週間の就労体験
		尼崎ものづくり塾	著名な経営者や技術者による講演や課題研究、尼崎市内企業の関係者の講演を聴講した後、市内中堅・中小製造業の工場見学を開催
		女性起業家講演会	地域の女性起業家から、地元の女子高校生を対象に、女性の立場として社会に出て働く事の意義、人生の転機などを中心に講演
2806	伊丹	職場体験事業	就職希望の高校2年生を対象に、商工会議所で職場体験を受け入れ
		特別支援学校への教材提供	社会の現場に則した教材（工場ラインの一部の手作業の提供や、サンプル商品の袋詰め等）の提供を会員事業所へ依頼
2811	洲本	インターンシップ事業	実業高校2年生の生徒全員（180名）参加による、地元企業へのインターンシップ
2812	豊岡	豊岡市「トライやる・ウィーク」	市内の公立中学校の2年生を対象として、受け入れ先となる企業や公共施設などにおいて、5日間体験学習を実施
2813	高砂	アントレプレナー事業	商業科高校の生徒が、外部講師（中小企業診断士・税理士など）を招き、企画・仕入れ・店舗販売・決算まで行う、1年を通した事業
2814	龍野	チャレンジワーク2011	市内の特別支援学校との交流会（授業見学及び企業人事担当者と学校教諭との意見交換）
		教材提供	市内の特別支援学校の実習支援（実習材料等の供給）
2815	加古川	若者就職応援事業	高校生の地元企業見学・発見バスツアー。参加者140名（男子74名、女子66名）。受入企業15社（サービス業、製造業、金融・不動産業、小売業）
		若者就職応援事業	就職活動応援フォーラムを開催し、講演会「働くってなんだ?」、地元企業4社の人事担当者によるパネルディスカッションを開催
		地元企業の高校内企業説明会	地域の就職希望の高校生を対象に、地元企業の担当者が企業の魅力や求める人物像、社会人になるにあたり取り組むべきこと等について講演

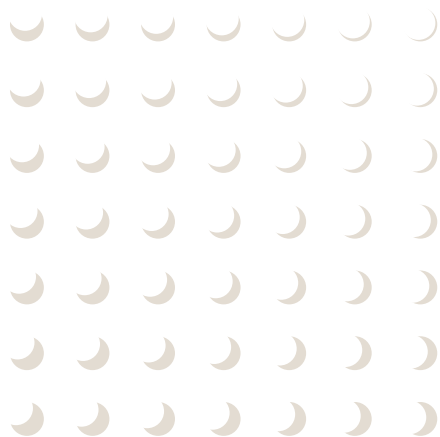
2902	大和高田	大和高田・檀原・葛城ものづくりメッセ	学生が企業ブースで社員とともに来場者に事業内容を説明し、来場者アンケート実施に協力。また、ものづくりメッセ事業運営のスタッフとして協力
		職場体験事業	綿栽培体験および繊維製品開発見学
3003	田辺	インターンシップ事業	学校からの依頼により、インターンシップの受け入れおよび事業所への斡旋
3005	御坊	インターンシップ事業	商工会議所でインターンシップを受け入れ
		きのくにロボットフェスティバル	最先端の企業ロボットの展示、高専ロボコン優勝校他のデモンストレーション、小・中・高校生のロボットコンテスト
		きのくに人材育成協議会	和歌山県（教育局、振興局）、市町村教育委員会、地域の高校、公共職業安定所と定期的に情報交換を行い、高校生の就業支援を実施
3007	紀州有田	職場体験事業	地元高校生が商工会議所に来所。地元商工業の実態、商工会議所の事業内容・接客等について研修
		社会人講師派遣事業	学校へ出向いて商工会議所職員が講師となり、講義
3101	鳥取	ほんまちクラブ	年3回程度、商工会議所を会場に、企業・行政・大学などが集い、講演会、情報交換、交流懇談会を実施
		大学との連携事業	商工会議所1階の展示スペースに、地元大学、高等技術専門学校の研究成果や、活動内容等を紹介するパネル、制作物等を1ヶ月位、学校ごとに展示
		いなばのお袋市	毎月第4日曜日、駅前アーケード商店街で開催する「いなばのお袋市」で地元高校が出店し、自校で生産した農産物等を販売し、市民と交流
3102	米子	地元産業界トップによる地元高校生への講演会	地元高校の卒業生を対象に企業経営者が講話
		大山・日野川・中海学おやこクイズ検定	親子で一緒に、地元資源（自然、歴史、文化）に関する問題に本を使いなから回答
3103	倉吉	中部元気クラブ	講演、大学・企業等のPR、交流
		親子歴史まち並み産業見学教室	まち並み・企業見学、体験
		立正大学経営学部インターンシップ事業	食品加工場見学、農産物生産現場見学・収穫体験・加工体験、モニタリング商品見学、商品の共同開発提案
3203	出雲	ベンチャーキッズスクール	5人×8グループが企画した商品を製造販売し、ビジネスプラン（商品企画、資金調達、製造、販売、申告までの流れ）を実践
3208	江津	石見産業振興協議会	今後の石見地域の発展を目指し、産学官が一同に会して地域産業の活性化などについて話し合う場を提供
		島根職業技術教育振興会	講習会の開催、情報収集・提供。人材開発や企業内教育。職能短大学生への就職業務、工場見学等の支援、業界状況と要望の伝達
3301	岡山	インターンシップ事業	「大学コンソーシアム岡山」が実施するインターンシップ事業に受け入れ企業・団体登録。今年度は大学3年生を3名、5日間受け入れ
3303	津山	出前授業・職業講話	地元企業人による職業講話
3307	笠岡	子どもの職業体験実施事業	市内4高等学校2年生による地元企業での職業体験
3308	井原	ジュニアものづくり教室	小学校5年生から中学生を対象に、ボランティアの指導のもと、ソーラーカー、FMラジオ、卓上ロボット掃除機、ボンボン船などを製作
3401	広島	産学官連携による貿易実践講座	産学官が連携し、広島で活躍する専門家が講師を務め、中国に対する輸出実務と広島ブランド商品の輸出販売企画などの講座をシリーズで実施
		販売士養成講習会（2級・3級）	指定教材を使用して規定科目、時間を満たした販売士養成講習会を開催
3402	尾道	学校訪問	尾道市、商工会議所およびハローワークの役職員が分担して、近隣の12の学校・大学を3日間掛けて訪問
		校外学習	県立商業高校の1年生全員を会議所大会議室に集め、尾道市の歴史、産業、観光文化について集団研修を実施
		社会人講師派遣事業	主な業界より講師を選任し、学校に派遣。生徒の選択により、希望の講師の講話を聞き、討論

3404	福山	インターンシップ事業	地元大学、高校から商工会議所へのインターンシップを受け入れ（毎年1～2名、3～5日）。各部署業務の作業補助、商店街直営店での販売補助等
		インターンシップ事業	地元大学から商工会議所へのインターンシップ受け入れ、当所議員企業、青年部入会企業等への斡旋依頼
		民間企業での教員受け入れ事業	広島県教育委員会より、教員歴3年目の教諭を対象に、7～8月にかけ実働5日間、民間企業での研修受け入れ先を紹介
3405	三原	職場体験事業	中学校の夏休み期間の8月に5日間、市内事業所の職場体験を実施
3406	府中	府中市キャリア・スタート・ウィーク	学校教育の一環として、市内の事業所において職場体験を実施
		夏季BINGOチャレンジインターンシップ	備後地区の企業への就職意識が高い人材を育てるため、商工会議所でインターンシップを受け入れ
3407	三次	社会人講師派遣事業	地元公立高校（三次高校）定時制において、就労意欲の向上と地元の産業や企業の現状についての特別授業の講師の推薦
		インターンシップ仲介事業	地元の中学校、高校が夏休み期間を利用して実施する職場体験学習について、受け入れ先事業所を商工会議所会員事業所の中から選定し斡旋
		インターンシップ事業	当所実施の産業イベント「みよし商工フェスティバル」に地元高校（3校）の展示ブースを出展、また、各高校から運営ボランティアスタッフとして参加
3408	庄原	職場体験事業	商工会議所で地域の中学生の職場体験を受け入れ
		民間企業での教員受け入れ事業	県教育委員会地域事務所より依頼を受け、2週間の教職員の職場体験受け入れ先企業を紹介
3409	大竹	職場体験事業	地域企業で職場体験を実施（1週間程度）
3411	因島	因島ものづくり企業見学ツアー	造船業への理解と興味を持ってもらい、地元での就職へつなげるため、地元の基幹産業である造船業の企業説明および作業現場の見学を実施
3412	東広島	東広島学	近畿大学工学部で「東広島学」を開講しており、各分野で活躍する第一人者が講師を務めており、その中で当所の岸田会頭が講演
3501	下関	インターンシップ事業	本市の地域開発と中心市街地活性化の取り組み状況や観光振興策について座学や視察体験を実施
		次世代産業の人材育成支援事業	業種の異なる企業3社を選び、1日目は現場の技術者から講義を受け、2日目に各企業の工場で実際の製造工程等を見学し、実技を実施
		市内専門高校との就職懇談会	市内専門高校との就職懇談会開催。参加人数 12 名、視察企業 10 社
3502	宇部	インターンシップ促進事業	インターンシップ受け入れ先企業の開拓
		職場体験事業	宇部商業高校の生徒が、商工会議所並びに商店街連合会会員の小売店で実習
		職場大検事業	大学、短期大学、工業高等専門学校、専門学校の学生の企業実習
3503	山口	インターンシップ仲介事業	地元高校生 80 名を対象に、商工会議所会員企業でインターンシップを実施
		インターンシップ事業	山口県インターンシップ協議会からの紹介で、大学生の受け入れ
3504	防府	職場体験事業	就業体験を希望する学生等を商工会議所で受け入れ
3506	下松	ものづくり人材内定促進事業	①地域連携協議会の設置・開催②企業から学校へ講師を派遣して講話③生徒の保護者・先生対象の工場見学④講師バンクの作成
3514	柳井	企業見学	機械科男女40名が、マイクロバス2台、2班に分かれて、企業3社を順に見学、その後、成果確認のアンケートレポートを作成
3601	徳島	ちびっこインターンシップ	中心市街地の協力店舗にて、実際の仕事を体験
3701	高松	インターンシップ学生受入事業	地域総合経済団体における就業体験研修

3702	丸亀	造船所見学会	造船所見学、進水式見学
		産学官連携事業	「ダンボールアート in 商店街」と題し、同県内にある会社と学生が協力し、ダンボールで作る巨大丸亀城天守やダンボール遊園地などを開設
		租税教室	租税教育推進協議会に協力し、商工会議所職員を租税教室の講師として派遣
3705	多度津	職場体験学習	小学6年生の職場体験を1日（2時間）および中学2年生の3日間の職場体験の受け入れ先事業所を紹介、斡旋
3706	善通寺	職場体験事業	複数の生徒を商工会議所で2週間程度受け入れ、主としてOA機器を利用した事務処理を持って、実習体験をしてもらう
		社会人講師派遣事業	1年に1度、四国学院大学、「善通寺学」として、講演を実施
		地元大学との連携事業	会議所等が主催するイベントで四国学院大学生のボランティアを受け入れ、主催者側のお手伝いを体験
3802	宇和島	高校生地域産業担い手育成事業	工業教育活性化委員会委員に委嘱され、教育プログラムの検討や企業等と学校の連携方策を検討
		インターンシップ事業	商工会議所会員企業で中高生を対象としたインターンシップを実施
3803	今治	一日企業見学会	見学可能企業を募集し、市内の高校に案内して参加者を募集。当日は、各自で企業を訪問、見学
3804	八幡浜	二宮忠八翁研修事業	児童 12 名を対象に、二宮忠八翁に関するビデオ研修、ANA機体工場・筑波宇宙センター・国会議事堂の見学、キッズニア東京での体験研修を実施
3805	新居浜	インターンシップ派遣前マナー研修	インターンシップ前の中・高校生にマナーの基本についてロールプレイングを交えて、研修インストラクターにより研修を実施
3808	伊予	事業者連携促進事業	地元高校の課題研究学習で、企業の実態調査、試作品の開発を実施。専門家などからアドバイスを頂きながら販売する商品を決定
3901	高知	学習発表機会の提供	伊野商業高校のキャリアビジネス科で観光ボランティアガイドを授業の一環で実施。当所主催の大会時にガイド役に彼らを起用し、学習発表の場を提供
3902	中村	社会人講師派遣事業	地域社会貢献・ボランティア活動について理解促進を図るための講義
		ツルの自然体験学習会	ツルの保護活動（餌場づくりのためのモミまき、デコイ設置等）と環境保全のための学習会等
3905	宿毛	職場体験事業	職場の紹介、仕事内容の説明（学校授業の中で）、職場体験
		租税教室	授業の一環として「税の大切さ」「税の使い道」の講師派遣
3906	土佐清水	ジョブ・カード制度推進事業	地元企業を理解し、将来の進路決定の一助としての普及活動
4001	福岡	インターンシップ事業	九州インターンシップ推進協議会に参画
		FUKUOKA みらいフェスタ	父母の職場を子ども達が見学
		大学ネットワークふくおか	商工会議所、福岡市、福岡都市圏 21 大学が「大学のまちふくおか」をめざし設立したもので、共同広報や学生イベント、就職支援事業などを実施
4003	北九州	インターンシップ生の受け入れ	就職活動を控えた大学3年生をインターンシップ生として、商工会議所で1週間程度受け入れ（今年度実績：2大学より1名ずつ受け入れ）
4005	飯塚	インターンシップ仲介事業	高等学校等からの依頼に応じ、インターンシップ受け入れ企業を紹介
4007	八女	課題研究 産業現場実習	産業現場において、商業に関する学習で得た知識と技術を生かし、産業現場での実際の活動を通して実践的な知識と技術を学習
		3年総合的な学習時間	総合的な学習の時間を利用して八女の未来に向けての話を聞く会を開催
4009	柳川	柳川市中学生キャリアウィーク	「柳川市中学生キャリアウィーク」と銘打ち、柳川市内中学校一斉に職場体験学習を実施
4012	苅田	キッズ・マーケット（商業体験販売学習）	町内の小学校を対象に、商店街に出店という形で、仕入から・決算までの体験販売の場を提供。実施校に事前説明会、事後の学習会などを実施

4017	宮若	職場体験事業	中学生を対象とした職場体験を実施
4104	鳥栖	職場体験事業	鳥栖商工会議所業務の補佐
4105	有田	地元大学との連携事業	地元大学の留学生の就職促進を支援
4108	鹿島	商い体験事業	地元高校商業科生徒がイベントで地元特産品（発酵食品）の販売、商い体験
4201	長崎	インターンシップ推進活動	長崎インターンシップ推進協議会が実施するインターンシップ事業に協力
4202	佐世保	商い体験事業	商店街内の空き店舗や施設を用いて、自分たちで仕入れた商品を販売。商いの一連の流れを体験学習
		商い体験事前講演	後日実施する「商い体験事業」を前に、児童が実施準備を行う一助とするため、商工会議所担当職員が小学校において講演を実施
		外国人消費動向調査	米海軍佐世保基地に勤務する軍人、軍属およびその家族をはじめとする佐世保市在住の外国人の消費行動を大学生が調査
4204	諫早	職場体験仲介事業	市内中学校、商業高校の職業体験学習取り組みの際、商工会議所会員事業所への受け入れ協力を依頼
		諫商商店街	諫早商業高校の生徒によるクラス別の模擬店舗を開設し仕入れから宣伝、販売、記帳、決算といった一連の商業活動を体験
		長崎県立諫早商業高等学校評議員	学校運営に対する意見活動と学校運営評価
4205	大村	インターンシップ事業	夏季に県内の大学から3名招き、商工会議所で就業体験
4208	平戸	「平戸つつじ染め」商品開発事業	産学官連携で「平戸つつじ」の花弁を活用した「平戸つつじ染め」の新商品開発および販路開拓を目的として地域活性化
4301	熊本	インターンシップ事業	商工会議所で地元大学、高校生のインターンシップ受け入れ（3日間～2週間）
4302	八代	職場体験実習	商工会議所会員企業で地元の高校生を対象に、5日間の職場体験
4304	人吉	職場体験事業	毎年1～2名を4日間受入れ、商工会議所の仕事を体験
		ホンビタリティインターンシップ事業	大学生の求めるテーマに対してプランニングし、「おもてなし」を提供
4305	水俣	社長の出前授業	商工会議所会員事業所の社長が教育機関へ出向き、仕事に対する心構え、仕事の大切さ等を講演
4307	玉名	職場体験事業	高校生の職場体験を商工会議所で受け入れ
4308	山鹿	インターンシップ事業	職場や地域のさまざまな世代の方々と接し、働く事の厳しさや楽しさ等を体験
4407	津久見	ジュニア・インターンシップ	受け入れ先の商工会議所会員企業で2日間の職場体験実習等
4411	宇佐	職場体験事業	商工会議所および会員企業で中学生の職場体験を受け入れ
4502	宮崎	職場体験事業	地元公立商業高等学校の要請により、商工会議所で職場体験を受け入れ
4504	日向	職場体験事業	地元高校からの依頼により、商工会議所会員事業所での業務体験（3名）
4505	高鍋	総合的学習	町内の若手後継者が中学校に出向き、それぞれの職業について講演
4506	日南	インターンシップ事業	商工会議所で地元高校生のインターシップ受け入れや受け入れ先企業を紹介
4507	小林	インターンシップ事業	商工会議所会員企業で、地元高校生が3日間のインターンシップ
		商店街リーダー育成事業	地元高校商業科の生徒を交えて商店街づくりの勉強会を実施
4509	西都	街なか美術館事業	地元の各小学校に「西都地区の行事、西都の名所、人物、遺産」をテーマに絵画を作成してもらい、西都市の中心市街地の参加店に展示
4603	鹿屋	職場体験学習	地元の田崎中学2年生（1名～3名）が10月中旬の3日間、始業時間から夕方4時まで商工会議所事務所で職員の指導を受けながら、事務作業を体験

4609	指宿	職場体験学習	指宿商業高校2年生の職場体験学習を毎年実施。会員企業等への受け入れ打診、協力企業名簿の作成
		指宿市キャリア・スタート・ウィーク	指宿市内の中学2年生全員が、同時期に5日間にわたり職場体験
		教育行政の推進	商工会議所会頭が教育委員長に就任し、地域経済の活動状況等を教育関係者に周知
4611	霧島	職場体験学習	高校2年生を対象に3日間、受け入れ企業の実情に沿った業務を学習
4702	沖縄	インターンシップ事業	商工会議所で高校生のインターンシップを受け入れ



日本商工会議所

The Japan Chamber of Commerce and Industry